

令和 4 年度 事業報告

(令和 4 年4月1日 ～ 令和 5 年3月31日)

社会福祉法人 豊 友 会

児童養護施設 島 添 の 丘

児童自立生活援助事業 島添ホーム

目 次

I. 社会福祉法人「豊友会」の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1. 目 的・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 沿 革・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3. 組織機構図、役員氏名・・・・・・・・	2
II. 令和4年度事業実施報告（本部）・・・・・・・・	3
1. 豊友会実績報告・・・・・・・・	3
(1) 理事会について・・・・・・・・	3
(2) 評議員会について・・・・・・・・	3
(3) 令和4年度の重点目標の評価と反省・・・・・・・・	3
2. 監査報告・・・・・・・・	6
III-I. 児童養護施設「島添の丘」の概要・・・・・・・・	7
III-II. 島添の丘基本理念・基本方針・・・・・・・・	7
III-III. 島添ホームの概要・・・・・・・・	7
IV. 令和4年度児童養護施設 島添の丘事業計画・・・・・・・・	8
入園児童の状況・・・・・・・・	9
年度別入退所・進路状況・・・・・・・・	10
V. 令和4年度事業実施報告（施設）・・・・・・・・	11
1. 施設の運営管理・・・・・・・・	11
(1) 人 事・・・・・・・・	11
(2) 庶 務・・・・・・・・	11

I. 社会福祉法人「豊友会」の概要

1. 目 的

社会福祉法人「豊友会」は、児童の人権を尊重して多様な福祉サービスが総合的に提供されるように創意工夫することにより、児童それぞれの尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的として次の社会福祉事業を行う。

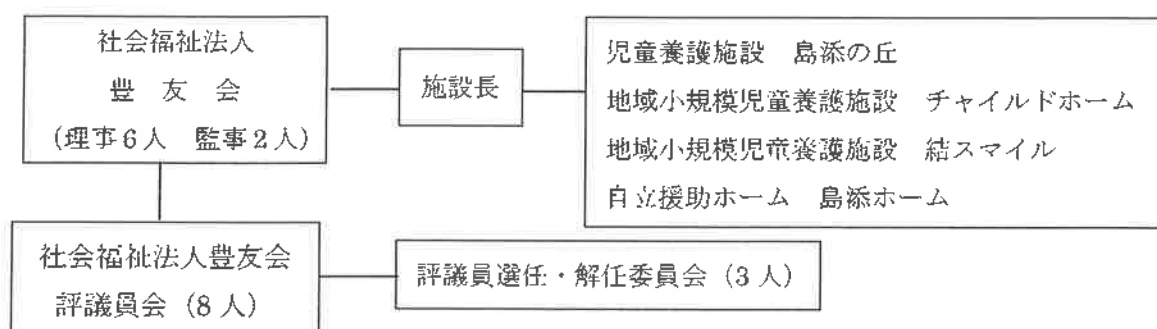
第一種社会福祉事業	児 童 養 護 施 設	島添の丘
	地域小規模児童養護施設	チャイルドホーム
	〃	結スマイル
第二種社会福祉事業	児童自立生活援助事業	
	自 立 援 助 ホ ー ム	島添ホーム

2. 沿 革

昭和 58 年 11 月 16 日	法人設立認可
11 月 26 日	赤嶺有快氏初代理事長就任
11 月 29 日	法人登記
12 月 21 日	島添の丘着工 59 年 5 月 15 日完了
昭和 59 年 5 月 1 日	大城安隆氏初代施設長就任
5 月 26 日	落成記念式典・祝賀会
6 月 1 日	島添の丘設置認可 児童入園開始
6 月 26 日	建物保存登記完了
昭和 60 年 6 月 1 日	一周年記念誌発行
平成 4 年 12 月 1 日	自立援助ホーム（県補助金）及びファミリーホーム事業開始
平成 5 年 3 月 31 日	グラウンド擁壁補修工事及び建物前方西側フェンス設置（財団法人中央競馬社会福祉財団）
平成 11 年 10 月 20 日	島添の丘「児童を支援する会」発足 初代会長瑞慶覧長弘氏就任
11 月 27 日	創立 15 周年記念式典・祝賀会（改善センター）
平成 12 年 9 月 22 日	「福祉サービスに関する苦情解決委員会」設置
平成 18 年 3 月 31 日	児童養護施設分園型自活訓練事業「ファミリーホーム」終了
4 月 1 日	地域小規模児童養護施設「チャイルドホーム」与那原町に開設
平成 21 年 11 月 13 日	創立 25 周年記念式典・祝賀会（改善センター）
平成 22 年 1 月 15 日	創立 25 周年記念誌の発刊
平成 23 年 4 月 1 日	自立援助ホーム島添ホームの定員 10 人から 8 人へ変更
12 月 21 日	天皇陛下より優良民間社会福祉施設に対する御下賜金賜る
平成 25 年 6 月 1 日	沖縄県こころサポート事業開始
12 月 4 日	こころサポート室新築完成
平成 26 年 11 月 7 日	島添の丘創立 30 周年記念式典・祝賀会（環境改善センター）
平成 27 年 3 月 30 日	第三者評価受審（第 1 回）
8 月 1 日	島添の丘住所表記の変更（字大里から字平良へ）
平成 28 年 2 月 26 日	児童養護施設清浄園（大分県在）と姉妹施設提携
平成 28 年 4 月 1 日	自立援助ホーム島添ホーム定員 8 人から 7 人へ改定

平成 29 年 1 月 13 日 定款変更認可（平成 29 年 4 月 1 日施行）
 3 月 8 日 （福）豊友会 評議員選任・解任委員（3 人）の委嘱
 平成 29 年 4 月 1 日 （福）豊友会評議員（8 人）の委嘱 評議員会設置
 6 月 20 日 定時評議員会（理事・監事の選任 6 月 20 日より任期開始）
 12 月 22 日 第三者評価受審（第 2 回）
 平成 30 年 2 月 1 日 自立援助ホーム島添ホーム与那原町板良敷 4・13 へ転居
 平成 30 年 4 月 1 日 自立援助ホーム島添ホーム定員 6 人から 7 人へ改定
 平成 30 年 6 月 1 日 チャイルドホーム 与那原町字与那原 2998・15 へ転居
 平成 31 年 3 月 28 日 児童養護施設島添の丘 定員 60 人から 40 人へ改定
 児童養護施設島添の丘 小規模グループケア指定（2 ケ所）
 令和 2 年 6 月 1 日 児童養護施設島添の丘 本体施設定員 40 人から 28 人へ改定
 児童養護施設島添の丘 小規模グループケア指定（2 ケ所）
 地域小規模児童養護施設 結スマイル開設
 令和 3 年 4 月 1 日 チャイルドホーム 南城市大里字大城 2557・23 へ転居
 令和 3 年 12 月 21 日 第三者評価受診（第 3 回）

3. 組織機構図、役員等氏名



理事長 宮城 秋夫
 理事 饒平名 宏
 理事 玉城 孝
 監事 友利 健太

理事 仲原りつ子
 理事 山野 良一
 理事 新垣 和彦
 監事 島袋 裕美

評議員 島袋 哲也
 評議員 玉城 恒夫
 評議員 新垣 節
 評議員 知念 厚

評議員 花城 安夫
 評議員 金城サエ子
 評議員 上地寿賀子
 評議員 宮城 亮

評議員選任・解任委員
 評議員選任・解任委員
 評議員選任・解任委員

島袋裕美（豊友会 監事）
 前里輝明（外部委員）
 奥間 譲（事務局職員）

（令和 5 年 3 月 31 日現在）

Ⅱ. 令和4年度事業実績報告【本部】

1. 豊友会実績報告

(1) 理事会開催 4回

令和4年度の理事会は4回開催された。議案の内容は予算や決算等事業執行に関する定例の審議事項の他、規程の一部改正に関して審議された。

(2) 評議員会開催

定時評議員会 令和4年6月29日(木) 15:00~16:00

開催場所 島添の丘会議室

参加者 評議員8名、理事2名(理事長含む)、監事1名

審議事項

第1号議案

社会福祉法人豊友会 令和3年度計算関係書類及び財産目録(案)の承認について

(報告) 社会福祉法人豊友会 監事監査の結果について

第2号議案

社会福祉法人豊友会 次期役員(理事・監事)の選任について

報告事項

社会福祉法人豊友会 令和3年度事業報告について

(3) 令和4年度 目標の評価と課題

法人の運営する事業と入所している児童の自立支援のために下記の事項を重点目標として推進してきた。

①「沖縄県社会的養育推進計画」に添って施設の小規模化や多機能化、施設建設の在り方について検討する

平成31年3月28日に本体施設の2ホームを小規模グループケアとして、指定を受けました。1ホーム定員8名(経過措置中)。令和2年6月に大里ニュータウン内に地域小規模児童養護施設結スマイル(女子)を開設し、本体施設も定員28名とし全てのホームが小規模グループケアとなった。令和3年度は、与那原町で開設していたチャイルドホームを大里ニュータウン内に移転し、より連携が図れるようになりました。

小規模化の計画では、地域小規模児童養護施設を残し1ホーム開所の予定であるが賃貸物件や職員確保など課題があり今年度は開設するに至っていない。島添の丘全体の定員は40名で内訳は、本体28名(小規模グループケア)、チャイルドホーム6名、結スマイル6名(地域小規模児童養護施設)。

本体施設の老朽化も進み建替えについて、令和9年6月を目標に建替え工事スケジュールを作成した。建替え時期や小規模化、多機能化等について、沖縄県子ども生活福祉部青少年・子ども家庭課と9月に第1回目の意見交換会を行い「沖縄県社会的養育推進計画」の方向性を確認しながら計画案について概ね理解を得る。今後は、法人として建築検討委員会を設置

し具体的な計画の推進に努めたい。

- ② 法人事業と施設の情報公開、啓発活動のために引き続きホームページの充実と広報誌を定期的に発刊する。

「島添だより」広報誌を12月発刊した。表紙には、コロナ禍の中で創意工夫をして取り組んだ施設内キャンプを題材にTシャツ染めなどの子ども達が生き生きと活動した内容を記載しました。コロナ禍で様々な行事やイベントが中止になるが工夫して取り組んだ園行事やホーム行事等子ども達が元気に過ごしている日常を掲載しました。施設から巣立っていった子どもたちのあいさつや年間の思い出として活動の様子をアルバムとして紹介することができました。令和3年度の決算報告書、寄付者一覧表を記載できた。また、ホームページの充実として、地域広報委員会や島添ホームも含めて定期的に更新をすることができ「ホームページを見ました」との声も寄せられました。島添の丘児童を支援する会の広報誌も発刊することができ多くの支援者に活動内容を知らせることができました。各行事の様子など子ども達の生活状況を定期的に更新することで、支援の輪が広がったと思う。

- ③ 法人の地域における公益的な活動に努める

島添の丘は施設開設当初から地域に根ざした施設づくりを展開してきた。すでに地域活動として定着している活動もある。平良区草刈り、芸能祭、つなひき、PTA活動など地域活動へ積極的に参加することで地域住民からの一定の評価をいただいている。今年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から地域行事もほとんど中止となり残念であった。できる活動として取り組んだのは、地域の清掃活動や草刈りを施設の美化活動に合わせて実施しました。

地域のニーズに即した活動として平良区役員と調整し令和元年度から平良区内の独居老人宅への給食サービスと見守りを民生児童委員さんの協力を得て継続しています。市の社会福祉協議会からの依頼で福祉サービスにつなげる期間まで配食サービスを市社協と連携して取り組みました。南城市社会福祉協議会と連携し、お盆前と正月前に独居老人宅の清掃活動を他団体と協力して活動することができました。今後も地域福祉ニーズの把握に努め活動を強化し展開していきたい。

- ④ 児童の自立支援や地域交流を目的に福祉バザーを実施する。今年度も引き続き幅広く地域や関係者に呼びかけて内容の充実を図り地域に根ざした施設イベントとして実施する。

児童の自立支援や地域交流を目的として、福祉バザーを実施する予定であったが新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から関係者会議にて、対外的には引き続き開催を見送ることを決定し、内部交流として関係団体を招待し参加規模を縮小してコロナ感染防止対策を行い第39回南城市大里新春もちつき大会を実施しました。3年ぶりに関係者との交流の場にもなり、参加者からも3年ぶりの開催でお互いの交流の場になりましたと喜びの声が聞かれました。

次年度は第40回大会の節目になるので記念事業として盛大に開催を検討していきたい。日頃の支援に対し感謝を伝える機会として地域に根ざした施設イベントとして、もちつき大会・福祉バザーを継続できるようにしたい。

⑤ 人材確保と育成に努める

ホームページの活用で、施設の行事等の様子や活動状況の更新を定期的に行いました。施設に関心のある方が閲覧してもらい求人情報も掲載することで、応募するケースが増えました。今後もインターネットを活用し求人に当たりたい。

福祉分野における人材確保は深刻な状況であり、特に宿直やローテーション勤務で日曜祝祭日の休みなど児童養護施設の勤務形態は若い人たちから受け入れにくい状況があり、児童養護施設を選択しない理由にもなっている。

今年度は、地域小規模児童養護施設を新たに開設するために職員を募集しましたが、年度途中の離職もあり、目標に達することができませんでした。今年度採用した非正規職員は年度末に評価し正規職員へと登用しました。新規学卒者の採用が非正規での条件であり、応募が少なかったと思います。今後は、新規卒に関しても正規職員としての条件を掲示して募集したいと思います。

職員育成に関して OJT 等を中心に取り組みをしていましたがコロナ禍も重なり、職員交流も少なく組織力を向上するための面談やリラックスタイムも実施することができなく体調不良や家庭の事情など諸事情で離職がありました。職員定着に向けての取り組みが不十分であった。次年度は、人事考課など職員定着に向けての取り組みについて、職員処遇の改善や働き方の改善などできることから継続的に計画し実施していくことが必要であり最重要課題として人材確保に努めたい。

⑥ 職員の働きやすい環境及び福利厚生の実施に努める

今年度の民間給与改善費については、民間給与改善費の額の決定を待って、令和 5 年 3 月に一時金として常勤職員、非常勤職員（6 時間以上かつ 20 日以上勤務した者）に庶務課職員への改善費を支給した後で職員の経験年数から算定し支給しました。昨年度 新型コロナウイルス感染者への対応が重なる最前線において働く社会的養護を担う施設及び事業所に従事する者の処遇改善のため、賃上げ効果が継続される取り組みを前提として令和 4 年 2 月から収入を月額 9,000 円引き上げるための措置を実施されて、令和 4 年 10 月からは措置費に加えられて、当施設でも法人の役員を兼ねる施設長以外の職員へ支給しました。

引き続き新型コロナウイルス感染防止対策として、濃厚接触の疑いがある職員と同居家族については、抗原検査を施設負担で行いました。また、オミクロン株等に置き換わり、感染が爆発的に増えた時期には 2 週間に 1 度の頻度で全職員（児童）の抗原検査を実施しました。濃厚接触者や陽性者に関しては、保健所の指示に従い休業を実施しました。また、職員家族への感染を防止するために、旧チャイルドホームを職員が宿泊できるように賃貸を継続して活用しました。また、新型コロナウイルス感染症に対処するための感染症等対策業務手当の特例に関する給与規程細則を設けて、令和 4 年 4 月 1 日から職員が感染した児童や濃厚接触児童の看護や生活支援等を行った職員への精神的負担を考慮して手当を支給することができました。子ども達の安全な生活を保障する為に職員が感染リスクを負いながら生活支援を継続してもらったことに感謝です。

年休取得について、各職員に計画的に年休を使用するよう伝達し 10 日以上年次休暇付与者に対しては 5 日以上取得できるように行いました。だいぶ改善しているが 5 日間が取得できてない職員もいるので、継続して年休や産休・育休・子の看護休暇介護休暇を効率よく取得

していけるように努力していきたい。継続して働ける環境について、諸法令などが適用できるように努めたいと思う。

2. 監査報告

令和3年度事業の監事監査は令和4年5月25日に島袋裕美監事、友利健太監事によって行われた。ホームでの書類の管理について、プライバシーの観点からも重要書類の整理、保管について指摘があった。養護関係の業務日誌内容の見なおしが必要とのことだったが「適正に運営されている」との判断をいただいた。

また、沖縄県監査指導班による「令和4年度社会福祉法人及び社会福祉施設指導監査」については令和5年1月10日予定されていたが当施設において新型コロナウイルス感染者が出たため日程調整が厳しく昨年度に引き続き今年度も中止となった。

III・I. 児童養護施設「島添の丘」の概要

1. 設置団体 社会福祉法人 豊友会
2. 所在地 南城市大里字平良 2300 番地
3. 施設の概要 敷地面積 4,346 m² 建物面積 1,366.52 m²
4. 定員 40 名（令和 4 年 4 月 1 日）
本体 28 名 チャイルドホーム 6 名 結スマイル 6 名

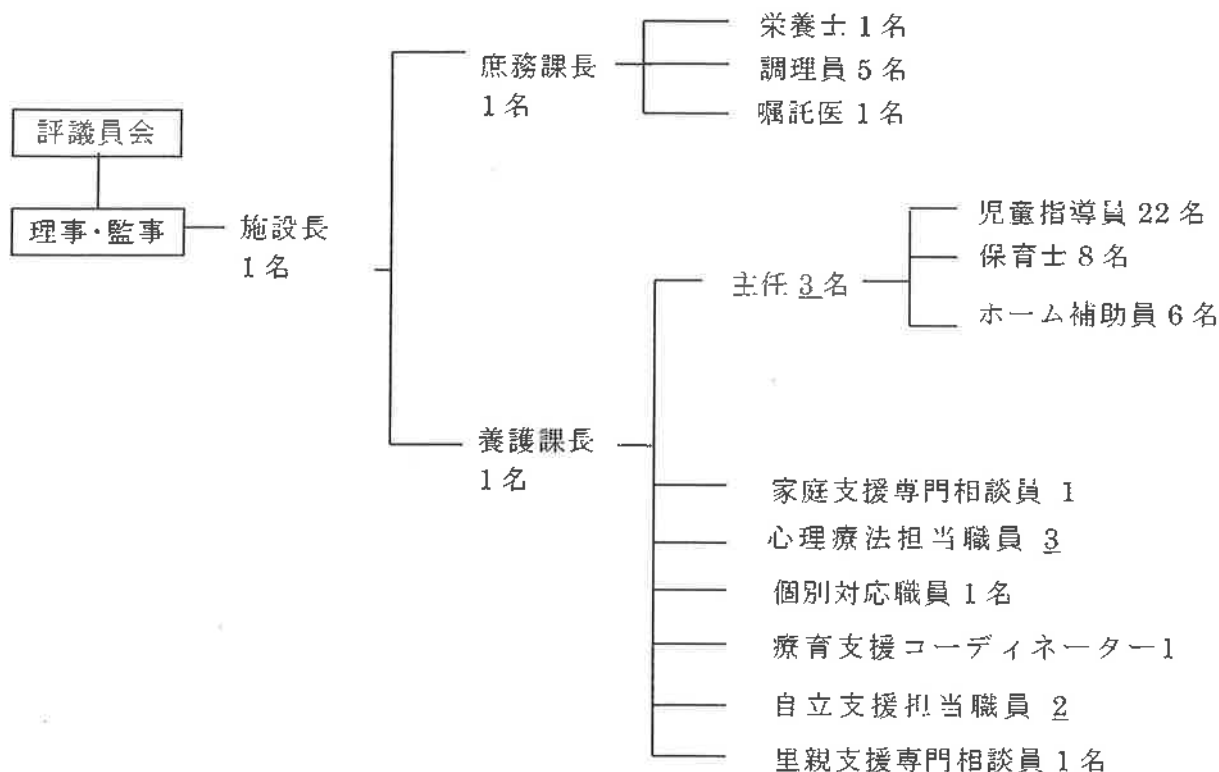
5. 設置目的

乳児を除いて、保護者のない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせてその自立を支援することを目的とする。（児童福祉法第 41 条）

児童福祉教育の場と青少年健全育成の専門的援助を提供し、関係機関及び地域住民と共に力を合わせて明るい社会づくりに寄与する。

6. 業務組織図

III・II. 島添の丘基本理念・基本方針



1. 基本理念

児童憲章の精神と児童福祉法の理念に基づいて、「心豊かでたくましく生きる」児童の育成を目指し、支援する。

2. 目標（めざす児童像）

- (1) 自分自身を大切にできる子
- (2) 思いやりの心を持ち行動できる子
- (3) 自分の夢や希望に向かって頑張る子

III・III. 島添ホームの概要

平成 4 年 12 月 1 日より自立援助ホーム（児童自立生活援助事業）として、県の補助を受け開設、平成 18 年 4 月 1 日に地域小規模児童養護施設「チャイルドホーム」を開設すると同時に、同場所で開設したファミリーホーム（分園型自活訓練事業）は事業を終了する。平成 30 年 2 月 25 日に「チャイルドホーム」と場所を分けて与那原町字板良敷へ移転する。

1. 設置団体 社会福祉法人 豊友会
2. 所在地 与那原町字板良敷 4-13
3. 施設の概要 敷地面積 157.99 m² 建物面積 47.8 坪
4. 定員 自立援助ホーム 7 名

IV. 令和4年度 児童養護施設 島添の丘事業計画

1. 基本理念

児童憲章の精神と児童福祉法の理念に基づいて、「心豊かでたくましく生きる」児童の育成を目指す

2. 目 標(めざす児童像)

- (1) 自分自身を大切にできる子
- (2) 思いやりの心を持ち行動できる子
- (3) 自分の夢や希望に向かって頑張る子

3. ホーム重点目標

- (1) 安心・安全な生活環境を整える
- (2) 健康で明るい子の育成
- (3) 思いやりのある子の育成
- (4) 目標に向かって頑張る子の育成
- (5) 自立に向かって頑張る子の育成

4. 基本的支援方針

- (1) 児童養護施設運営指針を基に、安全で適切な養育環境をととのえ、児童一人ひとりが精神的に安定し、明るく生き生きとした生活が送れるように努める
- (2) 家族、学校・関係諸機関、ボランティア及び地域との連携活動によって児童の養育効果を高めると共に、児童福祉教育の場と青少年健全育成の専門的援助を提供し、地域に根ざした施設づくりに努める。
- (3) 児童の最善の利益が尊重されるように「権利ノート」「沖縄県被措置児童等虐待対応ガイドライン」の活用にも努める
- (4) 家庭の働きに代わる施設の持つ最も重要な役割は、児童の基本的欲求(生理的欲求や安全、愛情、所属、承認、尊敬の諸欲求)の充足であり、それが、信頼関係を育てる基盤になることを自覚し、児童との望ましい関係づくりに努める。
- (5) 「心豊かでたくましく、生きることのできる力」をつちかうために、各ホームは児童の実態に即して主体性と創造性を発揮し、一人ひとりの子ども達の基本的欲求の充足を図り、効果的な養育が行われるような家庭的、教育的環境づくりに努める。
- (6) 児童の意見を反映した自立支援計画を作成し(実践・評価・改善)各児童の自立支援に努める。
- (7) 特別な支援を必要とする児童には、児童相談所等の専門機関の指導助言を受け、個別援助や心理療法等の治療的援助の充実に努める。
- (8) 権利擁護、地域・広報、学習・スポーツ、リービング・アフターケア、施設環境整備・感染症予防の各委員会の活動実践を通して養育の充実に努める
- (9) 多様化している養護ニーズに対応するために、地域小規模児童養護施設、自立援助ホームを効果的に活用し児童の自立支援の充実に努める。
- (10) ケア方針の調整やケアチームをまとめるために、各ホーム、園内保育、調理員、地域小規模児童養護施設、自立援助ホームに責任者を置き児童の効果的な自立支援を推進する
- (11) 地域活動への参加とボランティア活動や美化活動を通して、所属感の高揚と働くことの喜びを学ぶ
- (12) 児童の学習効果を高めるために、学習対応ボランティアや塾を活用する
- (13) 退園児童が安定した社会生活を送れることができるよう継続的なアフターケアを行う
- (14) スーパービジョンの充実により養育効果を高める
- (15) 児童等の意見・申出等への対応に関する実施要綱に基づき児童の福祉サービス向に努める
- (16) ボランティア活動に積極的に参加し社会性を身につける
- (17) 中長期的展望に基づく運営と職員の働きがいのある職場づくりに努める

入園児童の状況（令和5年3月31日現在）

1. 名称：社会福祉法人 豊友会
2. 所在地：南城市大里字平良 2300番地 電話 098-946-3331
3. 開園：昭和59年6月1日
4. 定員：40人
5. 在籍：男21人・女14人・合計35人

年齢別児童数

年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
男	0	0	1	0	0	1	1	0	0	3	2	1	2	3	1	2	1	3	0	0	21
女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3	2	0	3	2	1	0	14
計	0	0	1	0	0	1	1	1	0	4	3	1	5	5	1	5	3	4	0	0	35

※一時保護児童男児2名女子1名

学校・学年別児童数

学校名	学年	男	女	計
大里南幼稚園	未就学	1	0	1
	大里南幼稚園	1	0	1
				南幼稚園小計 1人
				0人
	1	0	0	0
	2	1	0	1
大里南小学校	3	0	1	1
	4	3	1	4
	5	1	1	2
	6	2	0	2
				小学校計 10人
	1	1	1	2
大里中学校	2	4	3	7
	3	1	0	1
				中学校計 10人
高等学校	1	1	4	5
	2	1	2	3
	3	3	1	4
その他		1	0	1
		21	14	35
合計				

南園(3) 南風原(4) 知念(1) 西和志(2) 特別支援(1) 豊見城高校(1)

出身市町村別児童数

那覇市	4	西原町	2
沖縄市	3	南風原町	2
南城市	1	北谷町	2
糸満市	3	本部町	1
浦添市	5	八重瀬町	1
豊見城市	1		
うるま市	4		
宜野湾市	4		
名護市	2	合計	35

地域小規模児童養護施設 チャイルドホーム（男女混合ホーム）
平成18年4月1日認可。一戸建てを使用
令和3年4月現在地へ移転

所在地 南城市大里字大城2557-23 電話 098-945-2717

定員 6人 現員 6人

（令和5年3月1日現在）

男	4	小学生2人 中学生2人
女	2	高校生2人
計	6	

地域小規模児童養護施設 結スマイル（女子ホーム）

令和2年6月1日認可。2階建ての一戸を使用。

所在地 南城市大里字仲間1042番地26 電話 098-917-5367

定員 6人 現員 6人

（令和5年3月1日現在）

男	1	幼児1人
女	5	小学生3人 中学生1人 高校生1人
計	6	

児童自立生活援助事業（自立援助ホーム） 島添ホーム（女子ホーム）
平成4年12月1日より国・県の補助を得て開設。同一場所で開催していた分園型自活訓練事業（ファミリーホーム）は平成18年3月31日付けで地域小規模児童養護施設に変更になる。平成30年2月に現在地へ移転
所在地 与那原町字板良敷4-13 電話 945-3411

定員 7人 現員 2人

（令和5年3月1日現在）

女	2	17歳 20歳1人(養子契約)
計	2	

入退所状況(令和4年度中)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入園	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	1	2	7
退園	0	1	0	0	2	1	1	0	0	1	1	5	12

※入園・退園は一時保護児童も含める

区分	家庭養護		自立就職		型	他施設への 移転	自立援助ホーム・ グループホーム・その他	合計
	親等 の引き取り	親等 の引き取り	就職 進学	就職 進学				
	7	0	0	2	0	0	2	11

年度別入退所状況

年度	入園	退園
昭和59	48	1
昭和60	17	4
昭和61	3	6
昭和62	6	10
昭和63	9	8
平成元	4	7
平成2	12	6
平成3	15	13
平成4	7	10
平成5	8	10
平成6	7	7
平成7	8	6
平成8	7	9
平成9	9	8
平成10	7	8
平成11	10	7
平成12	5	8
平成13	10	9
平成14	8	6
平成15	8	9
平成16	13	15
平成17	7	2
平成18	15	14
平成19	7	10
平成20	13	11
平成21	13	13
平成22	9	4
平成23	10	9
平成24	4	12
平成25	10	8
平成26	4	12
平成27	11	6
平成28	14	7
平成29	5	10
平成30	2	14
令和元	1	6
令和2年	1	13
令和3年	14	6
令和4年	7	12
合計	368	336

年度別進路状況

年度	中学校卒業後				浦添職業能力開発校				関係校 中退	高校卒業後				高校 中退
	就職	進学	就職進学 その他	就職 進学 その他	就職	進学	就職進学 その他	就職 進学 その他		就職	進学	就職進学 その他	就職 進学 その他	
59	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
60	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
61	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
62	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1
63	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
2	1	6	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
3	0	4(1)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	2	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	0	1
6	0	4	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	12(2)	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0
8	0	4	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1
9	0	7	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
10	0	6	0	0	1	0	0	0	0	4	2	0	0	0
11	0	4	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	1
12	0	3	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
13	0	6	0	0	1	0	0	0	0	4	1	0	0	0
14	0	5	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0
15	0	5	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
16	1	6	0	0	0	0	0	1	5	0	0	1	0	0
17	0	8	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0
18	0	6	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
19	0	3	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
20	0	5	0	0	0	0	0	0	4	1	0	2	2	2
21	0	4	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	2
22	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	0	7	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0
24	0	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	0	0
25	0	7	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0
26	0	7	0	0	0	0	0	0	3	4	0	0	0	0
27	0	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
28	0	4	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0
29	0	7	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0
30	2	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0
元	0	4	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0
2	0	3	0	0	0	0	0	0	2	6	0	0	0	0
3	0	6	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0
計	9	149	1	5	10	0	1	2	72	33	3	11	10	10

Ⅴ. 令和４年度事業実施報告（施設）

1. 施設の運営管理

(1) 人 事（島添の丘・チャイルドホーム・結スマイル・こころサポート島添・島添ホーム）

職員の動態

新規採用	11 人（児童指導員 8 人 保育士 3 人）
継続更新	9 人（書記 1 人 ホーム補助員 5 人 調理員補助 3 人）
産休・育児休業	1 人（児童指導員 1 人）
病欠休暇	3 人（児童指導員 2 人 保育士 1 人）
子の看護休暇	1 人（自立支援担当職員）
退職	11 人（保育士 2 人 児童指導員 8 人 自立支援担当職員 1 人）

(2) 庶 務

①運営管理の充実に向けての取り組み

ア. 職員の役割分担を整備

○本体施設の２階及び３階と自立援助ホームに主任を配置し、地域小規模（チャイルドホーム、結スマイル）には中堅職員をホームリーダーとして配置してそれぞれのホーム運営のまとめ役、新任職員の育成を担うこととした。厨房においては栄養士がリーダー的役割を担っている。専門職員は各々専門の立場からホーム職員へ助言し人材育成にも繋がっている。主任やリーダー的職員、専門職員には処遇改善加算Ⅱ、Ⅲ、Ⅳから毎月手当を支給している。

○職員は委員会（委員会活動参照）に所属し、児童の養育内容を充実させるための活動を行い、各々委員長、副委員長が委員会活動をリードしまとめ役になり養護会議や職員会議等へ意見を出し全体へ周知、反映させていく形をとった。

イ. 設備・備品等環境整備

○各ホームの職員部屋は障子を取り除きオープンにしていたがドアを取付け児童の面談等に配慮した。児童が自由に出入りできないようにし職員不在の時は施錠できるようにした。また、隣接した部屋を書類等を保管する場所として整備した。

○コロナ感染対策事業（県補助金活用）

借家（感染者隔離等のため）確保

抗原検査キッドの常備

衛生消耗品在庫管理（ガウン、キャップ、マスク、ペーパータオル、アルコール
ハンドソープ 手袋等）

②児童の快適な住環境の整備

○各ホームの居間（和室 6 畳間）を子ども部屋へ変更し子ども部屋 1 室増やした。

○児童が減ってきていることから食堂のスペースを半分にしてソファとテレビを置きリビングとしてくつろげる空間を整えた。

○備え付け食器棚を半分取り壊し、死角を見えるようにした。食堂、リビングも明る

くなった。

③働きやすい職場環境の充実

- ア. 令和4年度はホームの勤務体制を4人体制にし、ローテーション勤務の組み合わせを変更したことで時間内に業務を終えることに繋がった。また、これまで各階1人の宿直者が2ホームを見ていたが令和4年度より各ホームに宿直者を配置したことにより安心・安全な宿直ができた。
- イ. 各種休暇は、病休取得者は3名、産休・育休取得者が1名、子の看護休暇取得者1名いた。取得しやすい環境にあると感じる。年休の取得状況は勤務体制が変わったことにより前年度に比べてよくなったが職員にバラつきがある。計画的な年休執行をする等工夫が求められる。
- ウ. 各種処遇改善手当等の整備
 - ・給与規程の整備（社会的養護従事者処遇改善手当の挿入）
 - ・社会的養護従事者処遇改善手当として毎月9,000円支給（パート職員も常勤換算し支給の対象とした（原資 補助金4月～9月 措置費10月～3月）
 - ・民改費3%加算に伴う職員処遇改善加算は3月に一時金の形で支給（継続6年目）
 - ・給与規程細則の設定（新型コロナウイルス感染症に対処するための感染症等対策業務手当の支給に関して）
 - ・コロナ感染児童の対応をした職員へ業務手当として1時間あたり500円支給

④保健衛生管理の充実

ア. 施設内外の消毒の実施

第1回	令和4年11月実施	(株) 亜土消毒
第2回	令和5年3月実施	(株) 亜土消毒

イ. 児童・職員定期健康診断の実施

○児童

- ・身長・体重測定（栄養士対応） 令和4年8月 33名実施（全児童）
- ・嘱託医による内科検診 令和4年8月 33名実施（全児童）
（みなみ野クリニック外間康夫先生）
- ・沖縄県健康づくり財団による健診 令和4年11月 36名実施
（島添ホーム児童1名含む）

検査項目：視力・聴力・血液・心電図・尿・蛭虫・血液型（新規入所児童のみ）

○職員

- ・定期健康診断 53名実施
期 日 令和4年9月～令和5年3月
医療機関 沖縄県健康づくり財団、ちばなクリニック
豊見城中央病院、ハートライフ病院
浦添総合病院、赤十字病院
- ・宿直勤務従事者健診 27名実施

期 日 令和5年2月～3月
 医療機関 沖縄県健康づくり財団
 ・検 便 栄養士及び調理員5名（毎月6名実施）

ウ. 各種予防接種の実施

○児童

・インフルエンザ予防接種 32名実施

期 日 令和4年10月～12月

医療機関 大里こどもクリニック

みなみ野クリニック 他病院

※接種を拒む児童は本人の意向を優先し接種していない

○職員

・インフルエンザ予防接種 ￥2500までを施設負担として本人の判断で接種

エ. 感染症対策の強化

感染症予防委員会にてコロナ対策を強化した。内容については委員会活動参照

⑤食生活の充実

ア. 衛生管理の徹底

- ・各ホーム“小規模施設衛生管理マニュアル”を配布し衛生管理の基本的知識を周知
- ・新聞で食中毒関連の記事がでると話題にしその予防等を厨房職員に周知し意識させた。
- ・食中毒予防についての掲示物などを作りホームに掲示した。
- ・異物混入時の対応フローチャートを周知した。
- ・定期的に厨房清掃を取り入れた。

イ. 各ホームにて食事作りを実施し、家庭的な雰囲気づくりに努めた。

○ホーム職員による調理

- ・土、日祝日、冬春休みの長期期間中の朝食作り、部活弁当作り
- ・毎週土曜日の夕食作り

どちらも定着しておりホーム職員の負担にならないよう児童の食べやすいメニューを取り入れて継続して実施できた。

○厨房職員による各ホームでの夕食作り

厨房職員の職員数の関係で回数に限りがあるが前年度から継続して行っている。

月	回数
6月	3回
7月	2回
8月	5回
9月	4回
10月	6回
11月	4回
12月	2回
1月	1回

ウ、嗜好調査及び残食調査を実施し、児童の意見が反映された献立作成に努める。

- | | |
|---------------|------------|
| ○誕生日リクエストメニュー | 各児童の誕生日に実施 |
| ○残食調査 | 3月実施 |
| ○食事に関するアンケート | 3月実施 |

エ、栄養士による食生活についての助言

- ・貧血児童等病院受診で健康と食生活に関係するものがあれば児童、職員にアドバイスした。

オ、自立支援向けて基礎的な調理技術を習得できるようにする

今年度初めて弁当作りをする高校生は3名だった。弁当作りに不安がある児童には4月に一度弁当作りの練習を行い基本的知識を伝えた。

毎週月曜日は高校生自身がメニューを作成、買い出し、調理まですべて行なっている。チャーハン等の単品メニューになっている事が多く、気になる点もあるが取り組んでいることを評価したい。朝食・夕食をしっかりとっていれば栄養バランスは問題ないを考える。自分の持って行きたい弁当を持っていける唯一の日となっているので楽しみながら継続してがんばってもらいたい。

火曜日～金曜日は栄養士が献立を考え材料を準備し、仕込みを調理員が行ない、前日に材料とレシピを各ホームに届け調理は当日高校生が行なった。初めての弁当作りが負担にならないよう、メニューを簡単にしたり、難しいメニュー・火の通りが心配な料理は厨房職員が作るなど献立作成にも配慮した。レシピに衛生面での注意事項等も記入しており、毎日のレシピ見ることで衛生面の基本的な事も自然と身につくようにした。

ホームでの調理については、今年度も調理実習という形ではなく、ホームでの食事作りを多く取り入れた。ホームでの朝食作り、夕食作りの際に時々児童が手伝いをしてくれる姿が見られた。家庭的でいい光景だが食に興味がない児童は料理にかかわる機会が全くないので、定期的に児童がかかわる食事作りを取り入れる必要があると感じた。また、おやつ作りをする機会が少なかったのも、自分たちが食べたいおやつを作る事で食に興味をもってもらいたい。

⑥危機管理体制の強化

ア、食堂の備え付け食器棚を半分取り壊し食堂や職員部屋からの死角をなくした。

各ホームのベランダは各部屋から行き来ができないように仕切りを設置した。

施設周辺の危険個所を確認し職員、児童へ周知した。

車両による児童送迎が増え、清掃、給油、配車等について養護課に協力を求めて、定期点検や修繕に関して庶務課で対応することを明確にした。

イ、危機管理マニュアルの整備

- ・感染症予防委員会と協力し感染症予防マニュアルを作成し、感染症予防対策について周知した。

- ・危険個所を点検し、園庭の針金の柵を撤去する等安心・安全の意識を高めた。

ウ、防災グッズを揃えて、本園各ホーム、事務所、地域小規模も含め各ホーム単位ですぐ持ち出せるように整えた。

エ. 職員は児童の権利擁護意識を高めるため、権利擁護委員会が活動内容を職員会議で全職員へ状況報告し周知した。

⑦施設小規模化の推進

- ア. 小規模グループケアの養育単位は 1 グループ 6 人であるが当施設は経過措置で 6 ～ 8 人の 4 グループになっている。令和 6 年度までには 1 グループ 6 人にする計画がある。
- イ. 令和 5 年度新たに地域小規模児童養護施設の開設を視野に今年度職員 11 人採用したが退職者が 11 人（令和 4 年度新採用 4 人、その他 7 人）いたため計画通りに進められない状況であった。また、物件も情報収集に努めたが良い物件がなかった。

2. 入園児童の支援

(1) 201 ホーム評価と反省

今年度は小学生1名、中学生3名、高校生2名の6名の男子ホームとしてスタート。3月に中学3年生が家庭復帰となった。

異性の目が無い分、ホーム行事では男子ホームの特徴を生かし盛り上がり協調性が高い面も見られたが言動が荒くなる事もあった。他者の気持ちを理解する、異性との距離感、社会性を育む環境としては男女混合ホームの方がメリットは多いように感じた。

食器棚の一部を撤去した事で空間にゆとりが生まれ開放的になり、子どもの様子も把握しやすくなっており安心安全な生活に繋がった。また、ソファをリビングに配置し、子ども達にも「心地よい空間づくり」の意識が高まった。

児童支援では、全体として落ち着かない状況が続いた。ホームとして個々の特性や課題など、子どもの支援については児相、学校、病院など関係機関と連携、共有して支援に取り組んだ。

小4男子Aは愛着面の課題も大きく、年度途中で学級担任が変わった事で環境変化に伴い落ち着かない状況が見られ2学期から授業中の見守りが始まっている。学校、児相と密に連携し心理治療施設へと措置変更を検討している。3学期から問題行動は改善し園内でも他児とのトラブルは軽減して落ち着いており、施設での生活を継続する方向となっている。

中1男子Sは、感情コントロールに課題があり他児や職員とのトラブルが頻繁で、園内心理士、児相、学校と密な連携が必要であった。少しずつ自身の課題と向き合う事が出来ているが、今後も関係機関との連携が必須と思われる。前年度に引き続き心理治療施設への通所を行ない7月に終結、地域の病院へ転院、月一回の通院に切り替わっている。

中3男子Dは、他児の飲食物を盗んだり、年下児童とのトラブルや女性職員への悪態が繰り返あった。児相へ共有し都度振り返りを行うが感情コントロールが出来ず行動改善には至らなかった。本人の強い希望もあり家庭復帰調整を進め、受験を機に家庭復帰となっている。

高校生2名は自主起床ができず、バスに間に合わない事で遅刻する事が多かった。遅刻する事で進路に影響する事を伝えながら遅刻しない為の方法と一緒に考えている。卒業前の高3男子Kは改善が見られたが、高1男子Rは意識は高まらず改善に至っていない。継続して学校と連携が必要。

with コロナとして感染症対策を行ないながらホーム行事を実施している。施設外でのキャンプを2回行った。年度末には食事会を兼ねての実施できた。施設外の活動とあってか日頃の悩みを職員、他児童に相談する子どももおり子ども同士、子どもと職員の関係性を深める機会となった。又多くの職員による飲食物のプレゼントがあり応援してくれる存在、感謝の気持ちを抱く良い機会になっている。

施設外の活動として、小・中学生の3名が「現代版組踊 鬼鷲」に参加した。本公演以外の公演依頼も多く様々な場所で演舞する機会があり場数を踏む事で成長も見られた。より良い演技の為に各々で出来る事を考えて行動に移す事が出来ている。練習と自主練習の成果もあり、舞台公演に参加する事ができ自信に繋がった。残念なことに小学生のAがコロナウイルス罹患の為、本公演に出演できなかった。園内で活動を報告する場を設ける。みんなの前で演舞を披露する事ができた。

高3男子Kは療育手帳を所持している為、障害福祉サービス事業所の見学、受給者証の申請を行った。学校とも定期的に情報共有の場を設定し進路活動を行えば登校扱いにしてくれる事になり協力して頂いている。自身の障害受容が出来ておらず拒否感も強かったが、児相、学校、相談支援事業所との連携や進路活動を通して自身と向き合いつつある。4月からはGH入居し、就職活動(アルバイト)を行う事が決定している。今後も継続して関係機関との連携、アフターケアが必要となる。

家族支援ではFSW、児相と連携し、定期的な電話交流や帰省調整を行った。運動会や舞台公演など大きな行事の時に保護者が参加できない子どももいたが、年度途中で連絡が取りづらくなるケースもあった。今後も職員間での共有をしっかりと行い子どもへの支援に努めたい。

来年度も一人一人の情報を共有しながら、関係機関と密に連携し子ども達の自立支援に向けてホーム運営にあたりたい。

【201 ホーム担当職員】

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| ・大城 喜久 (主任児童指導員) | ・米須 なつき (児童指導員) 11月～3月 |
| ・潮平 里輝 (児童指導員) | ・伊弉川 愛 (児童指導員) 11月～3月 |
| ・有川 萌 (児童指導員) 11月～3月 (ホーム移動) | ・大城 知佳 (児童指導員) 産休・育休 |
| ・西表 勇貴 (児童指導員) 12月 (退職) | |

(2) 202 ホーム評価と反省

今年度は、小学生1名(男子)、中学生3名(男子1名・女子2名)、高校生2名(男子1名・女子1名)の子ども合計6名でスタート。9月より中学生1名(女子)が加わった。

今年度から縦割りの男女混合ホームに変わったという事もあり、様子見の1年となった。ホームでの困り事、気になる事があれば職員へ相談することを前提に、掲示物は極力少なくし、大枠のルールを決めた上でホーム生活をスタートさせた。4月頃は喋る相手がいないと男女から不満の声もあったが、日が経つにつれて男女関係なく和気あいあいと過ごせるようになった。また、より家庭的な雰囲気を取り入れる為にリビングにソファやテレビを設置した。子ども達にとって居心地の良い環境を整えたことで、子ども達もみんなでテレビを観たりと、リビングがみんなで集まる場となっている。

床の間であった部屋を改築して新しく子ども部屋1室設けた事で、ほとんどの子どもが1人部屋になり、プライベート空間を確保する事が出来た。

全体的にプライベート空間を意識しながら各々日課に励み、当番活動もしっかりと取り組む事が出来ていた。ただ、プライベート空間が充実したことで部屋で過ごす時間も増え、一人部屋の子は片付けがルールになり部屋が散らかる事が増えた。また、リビングにテレビやソファがある事で小5男子Yは食事中にテレビへの過集中、高1女子Sはテレビを独占して使用する等児童の課題が顕著であった。

休日の日課活動は毎週取り組むよう促した。片付けが苦手な子は職員も一緒に取り組みながら片付け方を知らせたが、すぐに散らかる事も多く整理整頓の意識が伴っていなかった。また、シーツカバーも各自購入しているが、シーツを洗わない子もあり、職員が声掛けをして取り組ませることも多かった。

ベランダの花壇の縁に登る児童がおり、危険な行為である事を伝えたことで、同じような事は起きていないが、定期的に危険な行為、危険な個所の把握、周知をする必要がある。また、SNSの使用方法についても施設内で再確認する機会を設けながらルールが存在する事の意義を伝えた。自転車の所有・使用に関して建設的な話を進めていきながら動いていく予定になっている。

コロナウイルス蔓延もあり、日々感染症対策を徹底していたが、7月に5名の子どもがコロナウイルスに感染した。保健所と連携を取り合いながらケアに努めて、全員回復したが、2人からのどの痛みや食欲不振の訴えがしばらく続いた。食事面等に気を配りながら健康第一に努めていきたい。

また、コロナでの自粛期間もあり子ども達同士でいる時間が長くなり異性間の距離の近さが問題になった。委員会を中心に施設全体で共通認識を図りながら子ども達に適切な距離間の保ち方を知らせた事で、距離を意識出来るようになったが、中3女子Kは異性間の距離の近さや、夜更かし、施設生活のルールを守れず、生活日課が崩れ、母宅への家庭復帰を希望。母も施設職員の不満を口にする電話を寄せる事が増え児童相談所と協議を重ね、家庭復帰となった。

9月に中1女子Jが新たにホーム児童として加わった。中2男子Jと良好な関係性を築いており、ホームで設けたルールの意識も高く年少児に注意や指摘をしてくれるなど良い影響を与えてくれた。

施設生活最後の年になる高3男子Kは、部活に重きを置き進路を決めかねていたが、自力で志望校を決定し大学進学を決めた。貯蓄が少なく、アルバイトに加え数々の奨学金への応募を促したが、本児のやる気が出ず申し込めていないものもあった。母や祖母も参加し本児の卒業を見届けてくれている。今後、自立支援担当職員とも連携を図っていきながらアフターフォローで見守っていきたい。

学校生活面でも中2男子Jは級長を務め、中1女子Jは校内駅伝の選手として大会に出場、英検5級に合格するなど活躍の場を広げている。

今年度3名の子どもが家庭に帰りたい気持ちから、無断で保護者宅へ行くなどの行動化により内2名が早期の家庭復帰となった。職員批判や考え方に偏りがある保護者を持つ子どもが複数名おり、FSWと密に連携を図り慎重な対応を求められた。子ども自身の課題も大きかったが、入所経緯や今後の意向の配慮不足もあり、児童相談所、FSWと連携し今後家族交流の在り方を丁寧に調整していく必要がある。

施設全体として物の大切さも課題として残り続けており、物を大切にする力の部分での対応方法も考えていながら、次年度ホーム運営として自立の芽生えを促すためにも計画的な貯金、美化意識の向上、他者への思いやりを念頭に置き児童の支援にあたっていきたい

【202 ホーム担当職員】

- | | |
|---------------------|------------------------|
| ・大城 喜久 (主任児童指導員) | ・友寄 りの (児童指導員) |
| ・我喜屋 万穂 (児童指導員) | ・金城 敬尋 (児童指導員) 10月から専任 |
| ・川口 海澄 (児童指導員) 9月退職 | |

(3) 301 ホーム評価と反省

今年度は、4月より年長男子を含む男女混合の縦割り小規模グループケアホームとして幼児1名、中学生2名、高校生2名の計5名スタートした。9月に中2女子が入所し、10月に中1女子が家庭復帰した。2月に小4年男児が入所し合計6名となり、変動の多い1年であった。

男女混合縦割りという構成で性的問題行動や距離間など課題が表出するかと懸念や年齢の近い構成メンバーでの生活ということで、子ども達が就寝するまで気を張っている状況もあった。しかし、権利委員会の「性と生のお話し会」の学習での意識付けや気になる児童へは個別で話し合いを実施した事もあり、大きな問題はなかった。単性構成では男女それぞれの特徴が出てしまい特有のトラブルも生じるが、男女共に意識し「気遣う」ことが出来ていたこともあり、その部分では混合縦割り構成の効果と思われる。

少人数化に伴い、これまで床の間と使用していた部屋も居室としたことで部屋数も増え、個室化で自分らしい空間づくりやきれいな部屋でいることの意識も出てきている。

食堂にリビング空間も設定しテレビとソファを配置した。皆が集まれる団らんの場となり和やかさも増してきた。ソファやテレビボード、のれんなどホームの必要品は子ども達と一緒にお店を巡り「自分達で選ぶ」という体験を重視し購入した。また、子ども専用のデスクトップパソコンを設置し学習用検索やゲームなど余暇時間の充実を目的に活用している。

厨房職員が週1〜2回ホームで直接夕食を調理して出来立て熱々の食事を頂けている。ホームで充実した調理ができるよう汁鍋やパットの器具を新調し揃えられた道具を使うことで時短や手軽に料理ができ「自分もやりたい」とお手伝いをする子も増え食事への関心も高まる効果が見えた。

児童支援として、新しい構成メンバーも含めホームのルール等は皆で話し合い決めた。皆が集う食堂に「誕生会表」を作成、書道や絵を掲示しそれぞれをアピールできるように工夫した。また園外活動や部活への積極的参加を促し、特に中学生、高1年生への部活動に関しては職員が応援に行き評価の場も設けた。協調性や報連相という自立に向けた基本的な所作を学ぶ機会になっており継続して取り組ませていきたい。高3男子Kは社会体験及び専門学校進学資金作りとしてアルバイトを経験させた。退園後の進路選択に関して将来の職業にも関わる進路だった為、どのような資格が取得できるか奨学金関係も重点に置き選択し志望校に無事に合格する事ができた。来年度は受験生が2名おり、これまでテスト直前の学習であったが「行きたい高校」「行きたい職業」の夢を叶えられるよう家庭学習の定着を促していきたいと思う。

ホーム行事では離島での海水浴体験、知念岬までのナイトウォーク、花火遊び、祭り見学、週末利用し夜景見学や公園での誕生会などを実施し、思い出を共有する機会を多く持ち仲間を意識付けた。また職員とペアで担当制を設け計画・実施・評価反省を取り組ませる事で「行事」の大切さも知り、職員との個別関係の強化も図れたと思う。

家庭との調整ではFSWを窓口として家族との定期電話連絡、面会、外泊外出の調整を行なった。中1女子Yは他児童とトラブルから施設生活へ不満を大きくし家庭復帰を強く希望する状況となり急遽10月に家庭復帰となった。9月に児童心理治療施設から入所した中2女Kは保護者の養育上の問題意識も低く本児へ「出来ない子」という見方もあり1月に面談を行い、治療施設と養護施設の生活の送り方について説明と理解を求めた。学校での頑張りも認めるようになり電話交流を開始している。家族交流の厳しい児童へは個別対応を強化しフォローに当たった。

今年度は勤務年数の浅いメンバーがホーム専任となり戸惑いもあったが、情熱と意気込みを持ってホームの安心安全、心が落ち着く場として、日々の生活から相手のプラスの面に目を向けていけるよう、また個別支援とホーム運営のバランスを上手に取るように研修など参加し成長していきたいと思う

【301 ホーム担当職員】

- | | |
|-----------------|----------------|
| ・村上 大吾 (児童指導員) | ・奥谷 京香 (保育士) |
| ・多良間 瑞季 (児童指導員) | ・金城 千賀子 (3階主任) |

(4) 302 ホーム評価と反省

今年度は、4月より男女混合縦割りホームとして小学生2名、中学生1名、高校生4名の計7名スタートした。年度途中で小学生2名、中学生1名が家庭復帰となり、新たに8月に小学生1名を加えて計6名でのホーム体制編成となる。

男女混合縦割りホームに伴い、職員間で異性との生活面での適切な距離間を意識してもらう為、事前に話し合いをし、新ホームとなった初日に子どもへルールの確認と異性との距離感を意識するように周知した。これまで関わった事の無い相手や男女混合ホームを経験した事が無い職員・子どもも多く、最初は不

安や戸惑いから不満も出ており生活に慣れるまで時間はかかったが、生活をしていく中で少しずつ意見を言い合い、お互いを知り、存在を認め合う事が出来るようになってきた。

小規模化として新たにソファやTV台・共用PCの設置を行う。ホームで過ごす時間が有意義となり、団らんの時間も増えた。また、家庭的支援の1つとしてホームで調理する機会も増え、厨房職員が料理をしたり、職員が作っている様子を見る事でお手伝いの意識や食への関心を示す事に繋がった。

H日常生活では、職員間の引継ぎや子どものケース支援会議等を実施して、ホーム職員以外の専門職や上司からの助言をいただいて子どもの支援に繋げることができた。

子どもの構成は、小学生と高校生に分かれており個別の時間を取りやすかったが、小学生の特性が強く、年度当初は年長児が対応に苦慮する時期もあった。余暇時間に一緒にボードゲームで遊んだり、TVを観たり優しく関わってくれる事も多く、良い距離感で過ごす事ができていた。また高校生同士の時間では、同年齢の悩みや学校生活での話題を出し合い、互いに励まし合っている様子も見られ、和気藹々と過ごしていた。施設生活を通して不満やルールに葛藤する子どももいたが、職員が個別の関わりを持ち、気持ちを吐き出させる事で安心して生活できるようになっている。

ホーム行事は、昨年同様に新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出制限もあったが、感染対策を行って計画し花火・イルミネーション・ボウリング、季節ごとの行事や誕生日会、夜のドライブ等を実施する事が出来た。行事を重ねることで絆が深まる事が多く、ホーム行事を楽しみにしている子どもも多かった。

児童支援として、小6男子Kは新しい環境での生活がスタートしており、学校や担当医とも密に連携を図った。月に1度ノアーズガーデンとの通所では生活場面での振り返りや気持ちの整理を行い、情緒も安定してきている。高1男子Jは高校へ進学したが、対人関係で学校が合わず転学を決断している。自分の気持ちを伝えるのが苦手な素直になれず職員を避けることもあったが、自身で進路選択し通信制の高校へ合格している。高2女子AはSNSトラブルに遭い、職員とも話をする場を設けた。本児の気持ちに寄り添いながら支援にあたり、携帯の使い方や自身を守る事について向けることでトラブルは無くなった。高2男子Aはやりたい事があっても行動化できず、職員の紹介でなりたい職種である理容師の職場体験も行った。体験したことで現実的な部分も見えたようだが、進路を決める良いきっかけとなっている。

進路支援として、高3女子Sが県内の介護福祉専門学校への進学を決めた。進路をなかなか決められず進路決定までには時間もかかったが、退園に向けて資金計画を作成する中で、学費や退園後の生活拠点等を定め、やりたい進路を見つける事が出来た。退園後は自立援助ホームを利用する為、自立援助ホーム職員とも連携し進路を支えていきたい。

家庭支援として、小5男子Hと小6男子Oの兄弟ケースが親族から引き取り希望が出ており、FSWや児相と連携を図り、週末に外出・外泊交流、転校する学校・関係機関との支援会議等を行い、8月に家庭復帰に繋げる事が出来た。

高3女子Sは、これまで家族との関わりは児相を通して行ってきたが、退園後の関わりを見据えて親族との交流も進め、長期休みで外出・外泊交流まで繋げた。進路についても理解を示してくれて退園後も専門学校卒業できるよう応援したいと話している。他ケースもコロナ感染対策を行いながら安全に配慮して外出・外泊交流を行うことが出来た。

次年度は、新しいケースも受け入れて、職員入れ替えの新体制となる。男女混合縦割りホームの良さを伸ばし、1人1人がお互いを認め合い安心して生活できるホーム運営を目指したい。

【302 ホーム 担当職員】

- | | |
|---------------|----------------------|
| ・喜納 優人（児童指導員） | ・金城 敬尊（児童指導員 4月～10月） |
| ・與那城五月（児童指導員） | ・屋比久朱音（児童指導員 10月～3月） |
| ・新里 美也（児童指導員） | ・金城千賀子（3階主任） |

（5）チャイルドホーム 評価と反省

地域小規模児童養護施設「チャイルドホーム」がニュータウンに引っ越して2年目に入った。前半はまだコロナ感染予防の観点から、手洗い、うがい、マスクの着用、外出の規制などある中、子供たちは庭でサッカーや野球を楽しむなど、工夫をして過ごす事が出来ていた。

専門的な関わりとしては、小4男子、高1女子の2名が本体施設の心理士の心理面接を受けている。小4男子は情緒的に不安定になる事が多く、癇癪や乱暴な言動が見られたが、心理士との連携もあり少しずつではあるが落ち着きをみせてきている。今後も継続的に連携を図っていく予定である。又、本体施設より以前関わりのあった職員（現課長）に、ホームにきてもらい本児に話しを向ける時間を設けた。多くの

職員が本児に関わっている事を意識させる事が出来た。

高1女子は、心理士との心理面接を通して、生立ちの整理も行い、家族に対する気持ちを少しずつ整理出来てきた。

小6男子は個別対応を週に1回設けていた。本児の好きな物づくりや絵を描く事などを通して本児の自信にもつながり、ホーム職員とは違う専門職員との関わりの中で、気持ちを表現する機会にもなっていた。

中3男子は受験に向けて、本体施設から自立支援担当職員が個別で勉強を教えにきてくれており、無事に第一志望の高校へ合格した。

学校との関りでは、小学生2名は支援学級に在籍しているが、小4男子は支援学級へ行く事を嫌がり協力学級で過ごすという状況になったが、本人の意思を尊重したいとの学校側の配慮もあり、年間を通して協力学級で過ごす事が出来た。小6男子は特性から距離感が掴めずクラスメイトとトラブルになる事があったが、学校と連携をとりながらトラブルを解決する事が出来た。今年度は学校との連携を取る事が多く、学校側の施設、特性のある子ども達に対する理解に助けられた1年でした。

今年度も庭の畑で野菜栽培を行い、色々な野菜を収穫する事が出来た。収穫した野菜はホームで調理してみんなで頂くこともできた。みんながおいしいと評価してくれ、野菜栽培に取り組んだ子どもの自信にもつながった。次年度は、地域の方にも分ける事ができるよう、これからも継続して取り組みたい。

地域との関わりでは、コロナ禍という事もあり地域での行事が殆どなく、引っ越してきて2年目になるが関わる機会があまり持ててはいない状況ではあった。近所の方との挨拶などはしっかりと行いながら、コミュニケーションを取るように職員も意識し、子ども達にもその姿を見せるようにしてきた。12月には、児童館でのクリスマス行事に子どもたちで参加している。小4男子は年度後半は児童館で遊ぶ事も増えた。

施設外の活動として、『現代版組踊 鬼鷲』に今年度もホームから4名の子どもが参加した。色々な地域から参加する子ども達と稽古をすることで、社会性も広がり舞台に立つ事で積極的にもなってきた。特に今年度はイベント活動が多く、多くの舞台を経験する事で活動の場や関わる人も広がり、子ども達も自信もつき成長も大きい。特に中2男子は、初公演の主役にも抜擢された。プレッシャーで押しつぶされそうになりながらも稽古に励み、堂々と舞台を務めあげる事が出来、本当に良かった。

県外遠征にも行かせてもらえた事の感謝の気持ちと、活動の成果を施設のみんなに披露する場も設けた。子ども達が自分で構成し、発表する事ができた。子ども達の送迎には多くの職員（本体施設、分園）が対応し支援してくれた。

地域小規模施設の役割は、少人数の子どもを特定の大人に関わりより家庭に近い生活ができるという事だと思う。その中で臨機応変に子どものニーズに対応するように努めた。その結果、以前、子どもから聞かれた「どうせ…」という言葉が減ってきた。子ども達にとってホームが安心、安全、安定そして楽しい生活の場となるように、これからも本体施設と連携をとり、子ども達の成長に寄り添い支援していきたい。

【地域小規模 チャイルドホーム 担当職員】

・伊保 浩美（保育士 ホームリーダー） ・大城 愛美（児童指導員）
・島崎 優一（児童指導員） ・上原 紗良（保育士） ・大城 離桜（宿直専任）

（6）結スマイル評価と反省

当施設2つ目の地域小規模児童養護施設として3年目となる。児童6名、ホーム専任職員5名とホーム補助職員で子どもたちの支援を行っている。今年度からホーム専任職員が5人になったので、常に日勤職員がホームにおり、小学生の宿題対応、食事作り、幼児の遊び相手、病院受診等役割分担を行い、支援をより手厚くすることが出来た。4月当初は前年度からの継続メンバーであった。高校生が前年度末からホームでの生活を拒否、職員、子ども達との折り合いも悪く、ホームでの支援が難しかった。関係が密になる事で一度関係が壊れてしまっただけからの立て直しの難しさを感じた。いろいろ体験したのち12月には自立援助ホームへ移動し1月に措置変更となった。ホームには10月から3歳児が入所し、久しぶりの幼児がいる事で癒しの存在となっている。

今年度もコロナウイルスの影響があり感染蔓延が見られたが、当ホーム児童は感染する事もなく元気に過ごしている。口頃からの予防も含め、よく食べよく寝る生活も身に付いている。年度末に1年間の振り返りをした際、子ども達からも「みんなで沢山笑って免疫力が上がったからじゃない」との話も出ていた。職員配置を手厚くしてもらっている為、休日は小学生を中心に公園やドライブ等で気分転換を行うこともできた。また年長児が優しいので年下児童がのびのびと生活している。園行事のホーム出し物では得意なダンスを披露したりと、とても和気あいあいとしているのが結スマイルの特徴である。

高2年Bの問題行動があり、本体施設職員の協力を得ながら支援にあたる。自己認知力や気持ちのコントロールについて心理士と短期の面接時間を設ける。素直に学ぼうとする姿勢がありホーム職員との学びの振り返りを行い、お互いに深める事が出来たいい機会となった。しんどくなると同じ失敗を繰り返す事もあり、継続した支援が必要と感じた。他児も心理士や個別対応職員との時間を設定し専門職からのアドバイス、連携を行っている。ホーム内で癇癪を起し、小さな空間でなかなか落ち着けない時に、本園職員に電話で声掛けしてもらおう等、本園からフォローをしてもらう機会も多かった。

ほとんどの児童が家族交流が少なく、それぞれに寂しい気持ちを持っている。楽しみにしていた交流がドタキャンになったり、音信不通が続いたりと不安な気持ちを、職員に吐き出したり、子ども同士でフォローし合ったりする様子も見られた。気持ちをため込んでしまう児童もいたが少しずつ言語化できるようになっている。ホームの安心した生活の中で、自分の感じていることを大切に吐き出しが出来るよう今度も個別に対応できる時間を大切にしていきたい。

地域との関りも増え、お隣近所にお野菜のお裾分けをしたり、お菓子のプレゼントを頂いたりと関わりも増えてきている。幼児が入った事で、H中お家の周辺を散歩し過ごすこともあり、児童館の職員が名前を覚えてくれたりと見守ってくれているのを感じる。又小学生も地域で活動できる幅（児童館や図書館の活用）が広がっており、休日には散歩に出かけたりと子どもだけでも安心して過ごせる場が増えている。地域の行事として草刈りやイルミネーションの飾りつけ、花火大会等イベントにも参加することが出てきた。次年度はより地域とのつながりを大切にできる様にしていきたい。

次年度はコロナが明けより地域に出での活動できるようになると思うので、地域小規模児童養護施設の強みでもある地域との交流や食材や日用品の買い物の生活体験等を積極的に行っていきたい。お金の使い方や出し方の苦手意識も強いので経験させたいと思う。また食べる事が大好きな子ども達である為、調理する機会を設け楽しみながら料理して皆に食べてもらえることも嬉しいが広がる様にしたい。幼児がいることで優しく関わる姿には沢山評価する場面を設けたいと思う。特性を持っている児童も多い為本体施設との連携も密に行い、専門職、チームケアを心がけたいと思う。

【地域小規模児童養護施設 結スマイル 担当職員】

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| ・具志 幸美（児童指導員） | ・大仲 さおり（保育士） | ・屋宜 菜々野（保育士） |
| ・山入端 理乃（保育士） | ・田中 邦俊（児童指導員） | ・新垣 ちか（ホーム補助） |

（7）人材育成の推進

①県内及び県外の研修に参加させ、職員の資質と専門性の向上を図る。

県内県外の研修会に参加させる。コロナ過でオンラインの研修が多く参加する研修も人数も増えた。職員へ研修案内等の告知を行い希望なども確認しての参加と研修内容によっては、担当課長より指示し参加してもらおう。研修後の伝達を職員会議で行っていたが、コロナ過で職員会議の時間短縮での実施であり、報告共有する機会が持てなかった。

参加研修については、事業報告書（147 ページから 150 ページ）参照。

②施設内研修の計画的実施

新任職員研修を実施する。社会的養護を必要とする児童支援について、児童養護ハンドブックや沖縄県被措置児童等虐待対応ガイドラインを活用し、読み合わせ等を行い児童支援の理解を深める。主に施設長が担当して、島添の丘の理念や方針など歴史など2日間で実施した。また、時間の許す職員は一緒に参加してもらい理解を深める機会としている。各専門職の時間を設けて、施設の持つ機能や連携チームワークについての重要性について、それぞれの立場から新任職員や2年目職員も含めての施設内研修を行っている。コロナ過もあり外部講師を招いての研修が実施することができなく工夫を凝らして実施すべきであったと反省点である。

施設内研修については、事業報告書（147 ページから 150 ページ）参照。

③姉妹提携施設との視察交流研修

今年度も新型コロナ感染防止の観点から交流事業は中止としました。次年度は、コロナも感染症5類になるので、清浄園と調整をし実施できるようにしたい。

(8) 委員会活動の評価と反省

① 権利擁護委員会 評価と反省

今年度は、権利擁護委員会以外の職員にも当委員会が行っている活動を理解し、職員全体で権利擁護や性と生に関する意識をもってもらいたいという観点から、権利擁護委員会メンバーだけではなく他職員にもお話し会にできる限り参加してもらうように声掛けを行った。特に権利擁護のお話会の取上げる内容によっては、リービング委員会に協力してもらい、会の中で補足の説明を行ってもらった。その結果、活動内容が深まった事や生活場面で共有できる言葉が増えたのは良かった。ただ委員会として他職員を入れて、会をどう運営するか、委員会の役割は何かを整理し実施する必要性はある。

また、お話し会の実施に向けた準備段階として、通年通り定期的に会議等で共有を図る会の実施へ繋がった。今年度も前年に引き続きコロナ禍ということもあり、ホーム代表が会議に参加することが多かった為、全職員に対して周知徹底が難しかった。コロナ禍も徐々に落ち着きつつあるが、今後も時代に合わせた周知の仕方や、いかにして統一した情報の伝達をするかなど改善すべき事も多い。しかし、お話し会の終了後にはホームにて振り返りの時間を設定するなど徐々に意識して実施してもらえるようになってきたように思う。ただ、お話し会の活動が性教育全てを網羅できる訳ではないので、日々の支援の積み重ねである事を職員全体が理解し、振り返りだけで終わらない支援を深めていく必要がある。次年度は生活場面に落とし込めるような支援方法を提案していくのも当委員会の責務のように感じる。

また、権利擁護の観点から子どもたちの意見を拾えるように権利のアンケート等を継続して実施した。ただ、年間を通して、委員会として子どもの意見を拾う機会が少なかったように思う。これからは子どものアドボカシーという支援も必要になっていく。今後も子どもの意見を尊重する為にもCAPさんの事業を通して職員向けに権利意識を高める研修を組んだ。ただ、委員会独自で職員向けの研修が充実して行えなかった。職員もそれぞれ価値観がある為、施設として統一した子どもの権利を守るとはどういう事か意見を交換する時間を設定する必要があったと感じる。

委員会内では定期的に委員会の会議時間を設定した。なかなか仕事の関係上、全員参加とはいかなかったが、委員会として定例で実施できたのは良かった。ただ、一緒に時間を共有できない事で、委員会としての意識の差やお話し会の内容の理解度に差が生まれている印象。委員会として意識して活動できるように工夫していきたい。

【権利擁護委員会】

- ・委員長：川添 貴博（こころサポート心理士）
- ・副委員長：翁長 明日香（心理士）
- ・委員：金城 千賀子（主任保育士）
- ・喜納 俊人（児童指導員）
- ・大城 愛美（児童指導員）
- ・友寄 りの（児童指導員）
- ・田中 邦俊（児童指導員）
- ・有川 萌（保育士）

② 地域・広報委員会 評価と反省

今年度の地域行事等への参加について、コロナ禍の生活から徐々に緩和されており、小学校PTAの夏休みのラジオ体操や中学校のふるさと伝統芸能祭の開催で、地域の子供達と公民館で集まったこともあり地域性を活かした活動の復活の兆しがみられ、施設生活以外で見せる子供達の表情を発見することができた。しかし、民生委員との交流会や綱引き大会等、計画はしていたが開催ができなかった行事もあり、残念ではあったが次年度に向けて取り組む期待へ繋がりたい。また、分園の地域小規模児童養護施設（大里ニュータウン）においても、地域資源である児童館を利用することで交流の場となったり、クリスマスのイルミネーション準備など行事参加もできるようになり、目指す地域共生の形と年々確立しつつある。

その他、社会福祉法人の公益的活動の一環として継続して取り組んでいる配食サービスについての効果としては、利用者の方と世間話やご自身の近況の話し、名前や顔を覚えてもらえるなど関係性も構築できているようになっており、施設に対しての信頼を得られることができているように思われる。また、下半期に社会福祉協議会より個別にて緊急相談を受け、これまでの当施設の配食サービスの規定に当てはまらない要支援世帯について、園内にて検討し既定の見直しを行い、臨時的に配食サービスを開始した。地域に根差し共生・共生を目指す法人として、今後も職員一人一人がその意識をもって向上できるように努力していく必要を感じた。

そしてもう一つ重点的目標としてはホームページ内容の充実化を置いていた。インターネットで情報を得ることが多く、ボランティア希望や寄付者、求人情報としてもホームページを活用しているという声も多く聞かれるため、児童の特定ができないように留意しながらマンネリ化しないように工夫した。しかし、これまで特定の方々へ発送している広報紙をバックナンバーとして掲載していたが、拡大すると児童特定

の懸念があり、現在は広報紙のみ掲載を一時中断している。次年度の課題として、紙媒体をネットにあげる際の工夫についてホームページ管理業者とも早急に相談していきたい。

【地域・広報委員会】

- ・委員長：玉城 優子（里親支援専門相談員）
- ・副委員長：大仲 さおり（保育士）
- ・委員：與那城 五月（児童指導員）
- ・大城 喜久（主任児童指導員）
- ・屋宜 菜々野（保育士）
- ・伊保 浩美（保育士）
- ・宮國 莉沙（主任）

③ 学習・スポーツ委員会 評価と反省

<学習面>

中3生3名でスタートした。受験対策として園内模試を早い段階から実施する事で志望校に合格するために克服する科目や、得意を把握する事が出来た。当初予定では3回の実施を計画していたが、年度途中で2名が退所した事や、塾でも模試の実施があり、児童が勉強に対してマイナスイメージが強くなってしまったため、園内模試は2回で終わっている。今後も中3生になると入塾する児童が多数の為、園内模試は1回のみの実施。塾での模試の状況把握に努める方向にする。面接練習については継続して実施をしていく事としたい。

<スポーツ面>

コロナの影響で2年間球技大会が中止となっているが規制緩和により、交流会という形で球技大会が開催された事で子ども達も久々の開催に喜ぶ姿があった。子ども達の期待感の大きさが伺えた。球技大会を経験した事のない子ども達、職員が多くいる為、球技大会開催の目的やこれまでの取組状況等をしっかり共有し、取り組んでいきたい。

球技大会で使用する、バスケットボールが劣化もあり購入をしたい。またユニフォームについても購入を検討してもらいたい。

<その他>

小学生用の自転車が悪化しているため廃棄予定。戸外活動の充実を図るために購入を検討したい。

倉庫の整理整頓について、委員会だけでなく職員間でも意識して取り組めるように周知して、物を大切にすることの大切さを子ども達へ伝えていきたい。

【学習・スポーツ委員会】

- ・委員長：金城 留美子（個別対応職員）
- ・副委員長：村上 大吾（指導員）
- ・委員：仲村 知佳（児童指導員 産休育休中）
- ・米須 なつき（児童指導員）
- ・我喜屋 万穂（児童指導員）
- ・新里 美也（児童指導員）
- ・島崎 優一（児童指導員）
- ・石橋 美紀（児童指導員：年度途中退職）
- ・西表 勇貴（児童指導員：年度途中退職）

④ リーピング・アフターケア委員会 評価と反省

今年度前半は新型コロナウイルス感染の影響が残っており、卒園生者に対しての交流の場を開く事は難しく、アフターケアは全体で集まるのではなく、物資支援等を活かしながら個別での対応が主となった。また、島添の丘児童を支援する会の支援を有効的に活用し、県外児童1名の元へ訪問する事も出来た。卒園者の多くが寂しさを感じている部分が見られたので、定期連絡や来園の呼びかけ、訪問などを含め、卒園者と施設の繋がりの強化を図れるように、今年度実施したサッカー大会の様な取り組みを考えたいと思う。アフターケアは、卒園者の顔や名前を知っていないと難しい部分もあるので、委員会メンバーだけでなく、ホーム担当職員と連携を図りながら卒園者の状況把握が出来る様にする必要がある。卒園者と関わりのあったホーム担当職員にも協力を仰ぎ、情報の共有が出来る様に工夫したい。

リーピングケアに関して、今年度は外部主催の自立に向けたプログラムに積極的に参加する事が出来た。オンラインプログラムが増えてきており、画面越しでは子どもたちの集中力・理解力に限界を感じたので、次年度は振り返り用紙の作成などを行い、子ども、ホーム職員、委員会で子ども達が学んだ事を共有できるようにしていく必要性を感じた。また、外部プログラムで学ぶ機会のない内容に関して、園内でのプログラムで取り組みを充実させたい。

次年度は高校3年生対象の自立前のリーピングケアだけでなく、中学生や高校生を対象にしたインケアでの講話やプログラム、自立に向けた面談を充実させられる様に計画を立て、子ども達が自分の自立を主体的に感じられる様に支援に努めたい。

【リービング・アフターケア委員会】

- ・委員長：平良 寛興（自立支援担当職員）
- ・副委員長：潮平 里輝（児童指導員）
- ・委員：下地 美佐子（家庭支援専門相談員）
- ・具志 幸美（児童指導員）
- ・多良間 瑞季（児童指導員）
- ・伊佐川 愛（児童指導員）
- ・上原 紗良（保育士）
- ・川口 海澄（児童指導員：年度途中退職）
- ・幸田久美子（自立支援担当職員：年度途中退職）
- ・山城 さつき（療育支援コーディネーター：年度途中退職）

⑤ 施設環境整備・感染症予防委員会 評価と反省

＜環境整備・事故防止対策・危険個所の把握＞

定期的に美化作業（草刈り）を行った。ハブ捕獲器を借用し安全対策を強化したが、危険個所の確認が年1回しか出来なかった。危険個所を確認、報告したが、修理改善まで出来ていない箇所もあるので、次年度は年3回実施し修繕までできるように方法を検討したい。

木の剪定や花壇等に花を植えた。四季折々の花が咲くように努力したい。

公用車の洗車・点検に関して、委員会メンバーで担当車を決め、各ホームと連携し洗車等を行う予定であったが、職員への周知が徹底できず計画的に実施出来なかったため、周知方法や取組み方を検討したい。

＜感染症対策＞

毎日の体温測定表を作成し実施できた。抗原検査キット・マスク・ガウン等の不足がないように定期的に確認・補充を行い、感染者が出た場合にも慌てることなく準備できた。感染症マニュアルを作成する事ができたので、全体で共有し活用していきたい。

防火グッズを揃え各ホームや分園に配布したが、定期的に中身の点検は出来なかった。万が一、火災等が発生した場合に慌てることがないように定期的に確認・補充、賞味期限切れは交換するようにしたい。また、防災靴が重く持ち運びが大変なので、軽量化できるように検討したい。

今年度は、年度途中で委員長の変更もあり、定期的に委員会の集まりを持つことができず、委員会の活動が計画的に行えなかった。次年度は計画的に活動できるよう委員会で連携・協力していきたい。

【施設環境整備・感染症予防委員会】

- ・委員長：仲座 豊（療育支援コーディネーター）
- ・副委員長：玉那覇 玲子（栄養士）
- ・委員：金城 敬尋（児童指導員）
- ・興谷 京香（児童指導員）
- ・山入端 理乃（保育士）
- ・保久原 京子（調理員）
- ・運天 麗美（調理員）
- ・仲宗根 敦子（児童指導員）
- ・今野 亮（保育士：年度途中退職）

（9）グループ活動の評価と反省

① リーダー会活動 評価と反省

リーダー児童：12名（各ホーム2名×6ホーム）

リーダー会としての活動が行事に対する役割に充てるだけの活動が多くなっているため、次年度は意識付けをするためにも、スタート段階でリーダー会の目的について共有を図り、子どもたち自身でリーダーの役割は何か、リーダーとして何が出来るか、リーダー的存在とは何か、どんな島添の丘にしたいか等を考える機会を設けたいと思う。職員側からもリーダー会は、施設生活を送る上でホームの代表として改善や向上、意見を出せる場としての位置付けである事を十分理解して、その目的を達成できる支援を図れるよう共有していく必要がある。

今年度からホームが男女混合縦割りホームとなり、性差を知る機会や生活場面でのプライバシーの尊厳等、子ども達が意識して取り組むべき事は多くあり、リーダー会として検討する機会があっても良かったと思う。

園の様々なルールについても不平、不満を出すだけではなく、どうしたら皆が安心して安全に生活できるのかをホーム代表としてリーダー会で話し合う機会を設けて、より良い生活にするために何が出来るかを考える事も必要と感じた。

リーダー会として活動をする事で、自分達で園生活を作り上げているという主体性や所属感を得ることが出来、自信にも繋がると思う。他児童から一目置かれるお兄ちゃん、お姉ちゃん的存在となり、相乗効果に繋がれる様な取り組みを行っていきたい。

【担当】：金城 留美子（個別対応職員） ・ 大城 喜久（2階主任） ・ 金城 千賀子（3階主任）

(10) ボランティア活動 評価・反省

今年度もコロナ感染予防対策として、ボランティアの皆さんに來園を控えていただくことも多かった。そんな中であつたが、状況が落ち着いてきた年度後半には感染予防対策も留意して活動も行った。直接ボランティアの皆さんと顔を合わせ交流する事ができ、子ども達も周りには応援してくれる方々がいる事を実感することにつながったと思う。

今年度、だんだんとコロナ感染の状況も落ち着き、感染予防に留意しながら施設行事の実施や外部（ボランティア）との交流も増えている。恒例のもちつき大会やクリスマス交流も縮小や制限を設けながらだが開催、実施もできたことは本当に良かった。初めて参加する子どもや職員もおり、施設が地域やボランティアに支えられている事を感じる機会となったと思う。

特に卒園する児童に対しては、不動産（アパート）契約時の支援やリースアップ家電の提供支援など、卒園後の自立生活支援として広がっている。周りには多くの方の支援があることを職員も認識して、日々の生活の中で子ども達にも伝え、自分達も誰かのためにできる事に取り組むという事に繋げていきたいと思う。

【ボランティア活動担当】：F地美佐子（家庭支援専門相談員）

(11) 被虐待児等地域療育支援事業（こころサポート事業）評価・反省

今年度はコロナ感染症も落ちつき、対面での会議・面接等の実施が可能になり、直に里親との面談・里親との心理面接が出来たことは良かった。オンラインツールも駆使しながら zoom や対面でのオープンスペース里親を開催する事ができた。また講演会の様子を録画し YouTube 等で配信する事で参加者や当日参加できなかった里親の学びを深める機会を設けることが出来た。

専門医による園内研修を実施。オンラインツールを駆使し Zoom を活用しながら多くの職員が学ぶことが出来た。職員のエンパワーメントを引き出す機会となり、施設入所する児童の理解を深め、児童支援の質向上に寄与する事ができた。

当事業がスタートし今年で 10 年目である。里親家庭へのアンケートを実施した結果、徐々にここサポの認知度は上昇傾向にあり、ここサポ利用で養育環境が改善した等、感謝のコメントも寄せられた。一方で、未だに『ここサポがどのような場所なのか分からない』や『ここサポを利用しても具体的な解決策がない』等の厳しい意見や『真実告知の方法、告知後の対応方法』に困っている等の相談もある。里親の生の声に真摯に向き合いながら、研修・勉強会を重ねてスタッフ自身のスキル向上に努め、様々な問題に対応できるようにしていきたい。認知されていない状況に関しても、今後の利用促進のために、里親支援専門相談員と協力し同行訪問をする等、ここサポの利用に繋げていきたい。また、この世相を反映させるようなオンラインでの相談の要望も数多く寄せられており、ハード面では実施可能な状況にあるのでオンライン相談の実施検討を考慮し、ソフト面での体制作りも検討していきたい。

今年度、途中から養育支援コーディネーターが交代になり、男性 2 名で運営する形になった。他の事業所とは違う当事業所としての強みとして、模索しながら業務に当たっていたが特色を活かすまでは至っていない。次年度は特色を活かした支援を実施していきたい。また、関係機関と連携したケース会議等を定期的に持つことが出来ず、統一した里親支援が難しかったことが反省点である。次年度は関係機関と連携して会議などを定期的の実施し、里親家庭を中心とした他機関と連携し、包括的な支援体制を確かにし、拡充をしていきたいと思う。

【被虐待児等地域療育支援事業担当】

・療育支援コーディネーター：仲座 豊

・心理療法担当職員：川添 貴博

(12) 専門的支援の評価と反省

① 心理相談事業 評価と反省

前年度 3 月から引き続き、施設不適應があり、特性も強く集団生活支援では苦慮する子ども（16 歳女子 R さん）の生活支援もしながら生活拠点や今後の展望など一緒に考える時間作りを 12 月まで行った。これまで集団では許容できなかった、子どもの甘えを刺激の少ない環境化（心理上と当該児童だけの関係性）で受容しながら、子ども自身にとって良い選択は何かを一緒に考える事ができて良かった。また、生活支援の職員と協働で支援する事の意味や重要性を考える機会になった。年度末には、ケーススタディとして養護課の職員で事例検討会実施し、ケースの見直しや今後の支援のヒントとする時間作りもできた。このケースから、多くの気づきと学びを得て貴重な時間を過ごせた事は今となっては感謝である。チーム支援

において、できる事とできない事の整理（限界設定）は必要だったと思うので、同様なケースが今後出た際には、子どもの利益も考慮しながら対応方法を全体で考えていきたいと考える。

心理面接の記録を今年度からは、日誌システムの児童日誌に反映させている。共有化する事の利便性と効率化は図れていると感じるが、一方で、守秘義務について職員の統一した認識がない状態での共有化の怖さはある、支援の意図からズレる事にも繋がる為、共通認識を図る時間作りも必要だったと反省である。また、記録も、全体閲覧用と心理面接用の記録を取る為二重になり、業務の煩雑さもあり、改善方法を考えていきたい。

今年度は鬼驚の活動や16歳女子Rさんの対応など生活場面で子どもとの関わりが多く持てた。実際の課題行動に対しての対応方法を焦点化して話を向けていける為、心理療法としても効果的な時間を過ごせたと感じている。心理の支援が実際の生活場面の支援と差がないように情報共有や、子どもたちの生活を観察する時間を次年度も大切にしていきたいと思う。

【心理療法担当】：翁長 明口香（心理士）

（こころサポート心理療法担当）

今年度も引き続き、園内の男子児童を担当する形になった。心理面接を開始にする前に、事前に担当のホーム職員と密に連携を取り、対象児童の普段の生活状況のヒアリングを行い、支援計画票を作成し実施するように心掛けた。心理面接を行いながら、ホームの担当者会議にも極力参加できるように調整し支援方法の方向性の見直しを行っていたが、情報提供が不足していた為、ホームでの継続した支援の実施が困難な事があったのは反省すべき点である。特に、児童の発達特性を考慮し、継続した支援をお願いしていたが、ホーム内で継続した支援が取り組めず、当初の予定の進捗状況よりかなり滞ってしまったケースについては、対象児童の見立てに差異が生じてしまった結果だといえる。次年度は、よりホームでの生活状況等を把握し、継続した支援が出来るようにホーム職員や対象児童が負担の無いようにしていきたいと思う。

また、生い立ちの整理については児童によって自分の生い立ちに関する興味、関心度に差があり、こちらも児童に合わせた生い立ちの整理が必要であったと感じた。ただ、生い立ちの整理を兄弟で実施した事で、共有体験できる言葉が生まれ兄弟間での所属意識が再び習得できたように感じる。その点では生い立ちの整理を兄弟でワークできたことは良かったように感じる。

また、児童以外にも職員の職務上のストレス低下、職場環境改善の為に職員との個別面談の時間を意図的に設けるようにした。しかし、個別での関わりを、全職員との時間を設けられなかったため、次年度は全体でのストレスチェックリストを実施するなどし、職場環境改善の役割を担いたいと思う。

今年度末には投影法の技法を心理面接で実施し、また園内心理士や他施設の心理担当職員と情報交換を行い心理面接の技法の研鑽を行った。今後も、日々研鑽に努めより良い支援に繋げていきたいと思う。

今年度も心理の支援だけではなかなか改善しない、ホーム職員と連携を図りながらチームとして包括的な支援の必要性を感じた。今後も情報交換等を行いながら、児童の支援にあたっていきたいと思う

【心理療法担当】：川添 貴博（こころサポート心理療法担当）

② 個別対応 評価と反省

今年度は結スマイル3名、チャイルドホーム1名、計4名の個別活動を行った。

ホーム生活場面における課題等に対してのアプローチを意識して取り組む。癇癪に対して、感情のコントロールについて視覚的に測れる指標を作成し、対象児が意識出来る様にした。自己肯定感の低い児童については評価される場面を作れるように得意な事を伸ばす取り組みなどを行った。家族に対する感情の引き出しを行う児童もいた。ホーム職員とも活動状況については報告を行い、連携を意識した。

ホーム担当者会議への参加について、勤務時間が合わずにすべてに参加する事が出来なかったが、意識して出席できるようにした。

小規模化になりホームでも職員との個別化が図れている事から、今後、個別活動の意図や進め方を検討する必要がある。お稽古事への同行等も個別活動時間として設定してみたい。

その他、施設機能強化推進費事業についての取組について、コロナ感染状況の減少により、外部交流や外出などの行動制限が緩和された事で、園内外研修への参加が実施出来る様になった。またコロナ禍で行動制限を余儀なくされていた子ども達の活動範囲も広がり、当初計画にはなかったイベントへの参加企画も行った。子ども達が楽しんでイベントに参加する姿があり全体行事の大切さや、園外活動、社会経験を図るための取組の大切さを改めて感じる事が出来た。

相談援助実習の受け入れを行っている。コロナ禍での受入であり感染対策については養成校と連携を図りながら取り組みを進めた事で、実習生、児童、職員に感染者が出ることなく安全に実施する事が出来た。実習生の受入について、人材確保へと繋げられるように目的や指導方法、記録へのフィードバック方法、仕事の魅力をどう伝えるか等、職員間でも共有を図る必要があると感じた。

【個別対応担当】：金城 留美子（個別対応職員）

③ 自立支援担当職員 評価・反省

令和4年度より職業指導員から自立支援担当職員に職種の変更があり、前年度以上にアフターケアへの意識を高く持ち、対応に努めた。定期的な状況確認の連絡だけでなく、公的機関の同行や家庭訪問などの取り組みも増え、卒園者の現状の課題を感じる事が出来た。にじのしずくとの連携を含め、関係機関で対応可能な支援を把握し、繋がりを強化しながら卒園者の困り感や必要としている支援に柔軟に対応できる様にしたい。また、アフターケアには卒園者との関係性も重要となってくるので、卒園者が在籍期間に担当していた職員との連携をしっかりと図り、お互いに卒園者の状況を共有し、より迅速に対応できる様に工夫したい。コロナの影響も少しずつ落ち着いてきているので、卒園者が施設に顔を出す機会を意図的に作り、交流の機会を増やす事を次年度は計画的に行いたい。

在園児童の支援として、高校3年生のリービングケアに重きを置いていたが、子どもたちが早い段階から進路を考えられる様に職業体験の個別化、進路相談などインケア中の支援を充実させていきたいと思う。その為にホーム担当職員、リービング・アフターケア委員会としっかりと連携を図りたい。

また、研修や会議などについて、前年度同様に積極的に参加し、県内外の他施設の自立に向けた取り組みやアフターケアの取り組みについて学び、施設の取り組みに繋がれる様にしたいと思う。

【自立支援担当】：平良 寛興（自立支援担当職員）

④ 家庭支援専門相談事業 評価・反省

今年度、家庭復帰となったケースは6ケース。親族引取りとなった小学生の兄弟ケースは、家族交流も計画的、段階的に進める。地域要対協など関係機関と障害福祉サービスの利用も調整でき、支援体制も整える事ができ夏休みに家庭復帰となった。

他のケースでは、集団生活や施設生活に対して制限が多いとの不満から、家庭で自由に生活したいという思いを大きくする状況となり、無断外泊など行動化があり家庭へ戻るケースが続いた。特に夏休み明けの2学期は女子2名が対人関係のつまずきから、施設での生活ではなく家庭復帰を強く希望した。児相や関係機関とも家庭復帰調整について検討し、児童、家族との話し合いを重ねる。家族の協力も確認し児童、保護者も納得して家庭復帰となった。アフターケアとして状況伺いの定期連絡や転校先の学校との連絡など行い状況把握に努めた。

どのケースでも早期の家庭復帰を望んでおり、児童、保護者（家族）に家庭復帰についての気持ちや考えを定期的に確認する事が大切だと感じる。それと同時に家庭の状況確認や地域関係機関との連携に努め、家庭復帰調整の可否を検討する必要がある。

各ケースで家族（親子）再統合に向けて、ケース毎のアセスメントを行って状況を整理し、施設入所が長期化しないよう、時期を逃さずに働きかけていくことも大切である。自立支援計画を共有しながら効果的な家庭支援、家族支援に取り組むたい。

その他、家族交流調整や保護者、家族支援もケース毎に取り組んでいる。ケース担当の交替もあるので、ケース引継ぎは大切であり、それぞれの個別支援会議にはFSWとして意識して参加するよう努めた。今後も他専門職やホーム担当としっかりと連携したい。

連絡の取りづらい保護者、関係作りが難しい保護者など対応の難しい保護者もあり、職員間ではしっかりと情報共有し、統一した対応に努めている。今後も保護者との関係構築に向けFSWの役割を意識してホーム担当職員とも協力していきたい。

高校卒業児童は今年度男子3名、女子1名の4名。男子2名と女子が大学、専門学校への進学となった。特別支援学校の男子1名は障害福祉サービスにて就労支援となる。それぞれ家庭復帰ではなく、一人暮らし、自立援助ホームへの入所、グループホームへの入所と卒園までに生活拠点も確保する事ができた。卒園後、家族との関わりも大切であり、進路決定の際には家族も含めて相談する場を設ける。FSWとして家族との調整に役割もあり、ホーム担当、自立支援担当職員と協力して対応支援でき良かった。

高校生には早い段階で、具体的な目標や資金計画などしっかりと取り組むことが大切であり、早い段階

から、児童、家族とも話し合い計画的に取り組んでいくようにしたい。

次年度も職員間の連携を密にして、それぞれのケースに合った『家族再統合』を目標に児童・家庭への支援の充実に努めたい。

中学、高校と年長になってからの入所も増えてきている。目標設定できているケースもあるが、十分な納得がなく目標設定もできていないケースもある。児童、家族の意向確認、家庭の状況把握を定期的に行い、それぞれのケースに合った『家族再統合』を目標に児童・家庭への支援の充実に努めていきたい。

【家庭支援事業担当】：下地 美佐子（家庭支援専門相談員 FSW）

⑤ 里親支援専門相談員

今年度大きな変化としては、コロナ感染の緩和となり昨年と比較すると倍以上の訪問支援等の介入があった。（昨年までの2年間は電話やオンラインを主としていた）養育相談が主ではある中、乳児院から委託を受けた世帯より生い立ちの告知等についての相談も増えた。子どもの年齢は様々で、中には養子縁組成立後1歳を迎えた誕生日よりその子を生んでくれた実母の話を子に話す里親や、節目ごとに子どもと共に乳児院へ出向き、当時の担当していた職員と会う等、子どもの出自を大切にされている里親もいる。逆に、養育里親として子どもを家庭へ受け入れているが、日々の生活で“我が子”としての愛情が強くなっていく一方、実母との交流について消極的になってしまう里親もあり、複雑な思いを受け止めながらも里親制度について繰り返し伝え、協力を得られるよう訪問等を重ねた世帯もあった。また、里親と子どもの不調により措置変更の検討がされたこともあり、家庭によって支援のニーズは多岐に渡るため、常に見相と情報共有や連携は必要となっている。里親支援専門相談員は園内に1人の配置であり、支援についての相談を他の里親支援専門相談員と行なったり、必要に応じて施設長や課長よりスーパーバイズを受けている。

里親支援について資質向上が求められる中、コロナ禍のおかげもあり本来なら県外へリアル研修として解される研修もオンライン開催が増え、県内にいながら受講できるのは感謝であり、県外の里親支援の取り組みや事例検討を学びながら、今後も精進していきたい。

最後に、次年度への継続課題としてあるのは、施設入所児童の里親委託推進について今年度は委託へ繋がらなかった対象児童がいた。家庭支援専門相談員や児相とも連携しながら、里親マッチング及び委託に向けて、実親支援や子どもを中心にした児童福祉となるよう取り組み強化を目指したい。

【里親支援事業担当】：玉城 優子（里親支援専門相談員 FCW）

3. 令和4年度参加会議

月	日	会 議 名	参 加 者	場 所
4	7	令和4年度第1回里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	里親会・青雲寮
	13	女性を支援する会会議(13:00 愛隣園 施設長)	施設長	愛隣園
	14	ライツオン・チルドレンとの意見交換会	施設長	オンライン開催
	25	4月こころサポート事業担当者連絡会	里親支援専門相談員	オンライン開催
	25	にじのしずく連絡会	自立支援担当職員	にじのしずく
	26	自立ホーム長：全国自立援助ホーム協議会総会・ホーム長会	施設長・主任保育士	オンライン開催
5	28	令和4年度4月こころサポート事業担当者連絡会	心理士	オンライン開催
	12	令和4年度第2回里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	18	第1回個別対応職員連絡会	個別対応職員	オンライン開催
	19	児童相談所・里親支援専門相談員5月連絡会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	20	5月こころサポート事業担当者専門オンライン会議	心理士 療育支援コーディネーター	オンライン開催
	24	令和4年度 沖縄県児童養護協議会第1回 協議員会	施設長	オンライン開催
	24	自立支援プログラムに関する会議	自立支援担当職員	島添の丘会議室
	24	令和4年度南城市要保護児童地域協議会代表者会議	心理士	南城市役所
	26	令和4年度5月こころサポート事業担当者連絡会	心理士	島添の丘会議室
	28	オンライン研修「発達障害のある子どもの家族支援」	児童指導員 心理士	オンライン開催
	2	令和4年度第3回里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	島添の丘会議室
	3	インターネット講話について講師打ち合わせ	自立支援担当職員	オンライン開催
6	8	家庭教師に関するオンライン連絡会	自立支援担当職員	オンライン開催
	9	令和4年度児童養護施設等職員初任者職員ファシリテーターの打合せ	養護課長	オンライン開催
	9	沖縄国際大学 2022(令和4年度)実習指導担当者懇談会 令和4年度支部総会及び算定基礎届事務説明会	個別対応職員	沖縄国際大学
	10	自立支援プログラムに関する会議	自立支援担当職員	浦添市産業振興センター
	13	2022年度沖縄大学社会福祉実習第1回実習指導担当者会議	個別対応職員	沖縄大学(オンライン)
	13	児童相談所・里親支援専門相談員6月連絡会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	15	中央児童相談所令和4年度第1回施設ケア	養護課職員19名	島添の丘会議室
	16	施設心理療法担当職員連絡会	心理士	オンライン開催
	16	コザ児童相談所令和4年度第1回施設ケア	養護課職員19名	島添の丘会議室
	17	令和4年度第1回児童養護施設等支援担当者部会	養護課長・主任	島添の丘会議室
	24	全国自立援助ホーム協議会九州ブロック施設長会議	施設長	こころサポートさとおや
	28	令和4年度6月こころサポート事業担当者連絡会	心理士	オンライン開催
	30	令和4年度児童養護施設・乳児院・児童相談所との連絡会	施設長・養護課長	沖縄県・オンライン
7	1	令和4年度お掃除ボランティア協力団体連絡会	主任児童指導員	南城市役所

7	4	ブリッジフォースマイル主催オンライン勉強会	自立支援担当職員	オンライン開催
	4	にじのしずくとの連絡会	自立支援担当職員	オンライン開催
	5	令和4年度第4回里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	南城市役所
	8	令和4年度南城市要保護児童対策地域協議会	心理士	オンライン開催
	12	令和4年度児童福祉施設等職員初任者研修会第2回 ファン リテーター打ち合わせ会議	養護課長	オンライン開催
	21	児童相談所・里親支援専門相談員7月連絡会	里親支援専門相談員	石嶺児童園
	25	自立支援プログラムに関する会議	自立支援担当職員	中央児童相談所
	28	令和4年度7月こころサポート事業担当者連絡会	里親支援専門相談員	オンライン開催
	8	1 「社会的養護自立支援事業等の実施について」三者会議	心理士	オンライン開催
		2 自立支援プログラムに関する会議	施設長・養護課長	
8			自立職員	島添の丘会議室
			児童指導員	
	4	令和4年度第5回里親支援専門相談員定例会	自立支援担当職員	オンライン開催
	4	東京スター銀行奨学金事前説明会	里親支援専門相談員	なごみ
			自立支援担当職員	
	8	全国自立援助ホーム九州ブロックオンライン意見交換会	児童3名	オンライン開催
			主任保育士	
	8	自立支援プログラムプレ企画	児童指導員	オンライン開催
			自立支援担当職員	
	18	児童相談所・里親支援専門相談員8月連絡会	児童指導員	オンライン開催
9	18	南城市社会福祉関係機関地域福祉担当者会議	里親支援専門相談員	南城市役所
	25	令和4年度8月こころサポート事業担当者連絡会	里親支援専門相談員	こころサポートさとおや
			心理士	
			療育コーディネーター	
	31	自立支援プログラムに関する会議	自立支援担当職員	県総合福祉センター
	1	里親会主催専門相談員連絡会	里親支援専門相談員	オンライン開催
	6	自立支援プログラムに関する会議	自立支援担当職員	オンライン開催
	7	令和4年度第6回里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	美さと児童園
	9	全国自立援助ホームオンライン交流会	主任保育士	オンライン開催
	13	家庭支援相談員連絡会	家庭支援専門相談員	愛隣園
10	15	児童相談所・里親支援専門相談員9月連絡会	里親支援専門相談員	オンライン開催
	22	令和4年度9月こころサポート事業担当者連絡会	心理士	愛隣園
			療育支援コーディネーター	
	3	令和4年度第7回里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	袋中園
	3	ライオンチルドレン情報共有会議	自立支援担当職員	オンライン開催
	3	ブリッジフォースマイル主催「外部団体との連携について」	自立支援担当職員	オンライン開催
	3	社会的養護自立支援について	施設長	沖縄県総合福祉センター

10	7	令和4年度沖縄県児童養護協議会第1回施設団体長部会	施設長	オンライン開催
	10	全国自立援助ホーム九州ブロック オンライン意見交換会	主任保育士	オンライン開催
	11	自立支援プログラムに関する会議	児童指導員	オンライン開催
	13	南城市社会福祉関係団体連絡会「幹事会」	里親支援専門相談員	南城市役所
	17	アフターケアネットワーク会議	自立支援担当職員	沖縄県総合福祉センター
	18	令和4年度沖縄県児童福祉球技交流会運営委員会	個別対応職員	オンライン開催
			児童指導員	
	19	第2回個別担当職員連絡会議	個別対応職員	オンライン開催
	20	児童相談所・里親支援専門相談員10月連絡会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
11	27	令和4年度10月こころサポート事業担当者連絡会	心理士	島添の丘会議室
			療育コーディネーター	
	7	令和4年度第8回里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	石嶺児童園
	7	自立支援プログラム実行委員会会議	児童指導員	オンライン開催
	8	家庭支援専門相談員連絡会	家庭支援専門相談員	愛隣園
	11	全国自立援助ホーム九州ブロック オンライン意見交換会	自立ホーム職員	オンライン開催
	15	南城市教育委員会主催奨学金説明会	自立支援担当職員	南城市役所
	16	社会福祉法人の地域における役割について	療育コーディネーター	オンライン開催
	17	児童相談所・里親支援専門相談員11月連絡会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
12	24	令和4年度11月こころサポート事業担当者連絡会	心理士	美さと児童園
			療育コーディネーター	
	29	令和4年度第2回沖縄県児童養護施設課長級会議	養護課長	中央児童相談所
	2	第39回南城市大里新春もちつき大会第1回協力者会議	もちつき実行委員会	島添の丘会議室
	5	令和4年度第9回里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	ならさ
	7	全国自立援助ホーム協議会九州ブロックホーム長会	主任保育士	福岡県
	8	南城市社会福祉関係機関・団体連絡会・幹事会	里親支援専門相談員	南城市役所
	15	児童相談所・里親支援専門相談員12月連絡会	里親支援専門相談員	コザ児童相談所
	16	児童福祉施設等心理療法担当職員連絡会	心理士	オンライン開催
1	21	令和4年度1月こころサポート事業担当者連絡会	心理士	美さと児童園
			療育コーディネーター	
	18	児童相談所・里親支援専門相談員1月連絡会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	19	第2回アフターケアに関する施設長会議	施設長	中央児童相談所
	21	冬季児童養護施設対抗スポーツ大会実行委員会	個別対応職員	石嶺児童園
	26	令和4年度1月こころサポート事業担当者連絡会	心理士	美さと児童園
			療育コーディネーター	
	27	ブリッジフォースマイル パソコンについて	自立支援担当職員	島添の丘会議室
2	3	第39回大里新春もちつき大会バザー協力者会議	もちつき実行委員会	島添の丘会議室
	6	第2回アフターケアに関する施設長会議	施設長	沖縄県総合福祉センター
	7	令和4年度第11回里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	袋中園

2	7	令和4年度第5回家庭支援専門相談員連絡会	家庭支援専門相談員	青葉寮
	13	アフターケアネットワーク会議	自立支援担当職員	沖縄県総合福祉センター
	15	令和4年度第3回個別対応職員連絡会	個別対応職員	若夏学院
	15	児童相談所・里親支援専門相談員3月連絡会	里親支援専門相談員	コザ児童相談所
	16	令和4年度南城市地域ケア会議「生活支援体制整備第一層協議体・包括ケア会議」	里親支援専門相談員	南城市役所
	16	令和4年度2月こころサポート事業担当者連絡会	心理士 療育コーディネーター	オンライン開催
	17	公益財団法人島尻青年会議所第68回通常総会	施設長	南風原町中央公民館
	17	2022(令和4年度)第2回「相談援助実習及び精神保健福祉援助実習」実習指導担当者懇談会	個別対応職員	オンライン開催
	21	全国自立援助ホーム協議会茶話会	主任保育士	オンライン開催
	24	令和4年度南城市地域ケア会議「生活支援体制整備第一層協議体・包括ケア会議」	里親支援専門相談員	南城市役所
3	2	里親研修及び支援体制検討会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	7	令和4年度12回里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	美さと児童園
	9	南城市要保護児童対策地域協議会第3回実務者会議	心理士	南城市役所
	13	自立支援促進事業について「NPO法人夢の宝箱」	施設長	南城市役所
	16	児童相談所・里親支援専門相談員3月連絡会	自立支援担当職員 里親支援専門相談員	中央児童相談所
	20	令和4年度 沖縄県児童養護協議会 第2回 総会並びに 第2回 施設団体長部会	施設長	オンライン開催
	23	令和4年度3月こころサポート事業担当者連絡会	心理士 療育コーディネーター	こころサポートさとおや
	23	令和4年度第4回理事会	理事会	島添の丘会議室

4. 令和4年度 参加研修

月	日	研修名（主催）	参加者・（職種）	場 所
4	4	新任職員研修	児童指導員・保育士 11 名	島添の丘
	5	新任職員研修	〃	〃
	6	新任職員研修	〃	〃
	7	新任職員研修	〃	〃
	8	新任職員研修	〃	〃
	9	権利擁護委員会「第3回生と性の学習会」（小中高対象）	児童 14 名・職員 6 名	〃
	30	第1回里親会主催アートセラピーワークショップ	心理士 里親支援専門相談員	沖縄県総合福祉センター
5	9	ブリッジフォースマイル主催オンライン勉強会	自立支援担当職員	オンライン開催
	21	園内奨学金説明会	職員 6 名・児童 5 名	島添の丘
	21	施設機能強化推進事業「上手なインターネットの使い方」	児童 25 名・職員 13 名	〃
	21	第2回里親会主催アートセラピーワークショップ	里親支援専門相談員	沖縄県総合福祉センター
	25	301 ホーム研修	児童 6 名・職員 4 名	島添の丘
	28	発達障害のある子どもの家族支援 発達障害とゲーム・ネットの世界	心理士	オンライン開催
	30	令和4年度養子縁組・養育里親基礎研修	里親支援専門相談員	沖縄県総合福祉センター
6	6	ブリッジフォースマイル主催オンライン勉強会「ステップアップホーム事業の成果」	自立支援担当職員	オンライン開催
	8	園内研修「子どもの問題行動とその対応方法」について	児童指導員・保育士 各専門職 27 名	島添の丘
	9	ブリッジフォースマイル主催オンライン勉強会	自立支援担当職員	オンライン開催
	14	第69回九州児童福祉施設職員研究大会一日目	施設長、養護課長 児童指導員、保育士	九州児童養護施設協議会
	15	第69回九州児童福祉施設職員研究大会二日目	施設長、養護課長 児童指導員、保育士	九州児童養護施設協議会
	18	第3回里親会主催アートセラピーワークショップ	里親支援専門相談員	沖縄県総合福祉センター
	21	虹のしずく主催研修「リービングケアからアフターケアへ」	自立支援担当職員 児童指導員	沖縄県総合福祉センター
7	6	里親と実親の協働を考える	里親支援専門相談員	オンライン開催
	12	園内研修スマホ勉強会（ネットリテラシー講座）	児童指導員・保育士 各専門職 29 名	島添の丘
	14	令和4年度第1回養子縁組・養育里親登録前研修1日目	里親支援専門相談員	沖縄県総合福祉センター
	15	令和4年度第1回養子縁組・養育里親登録前研修2日目	里親支援専門相談員	沖縄県総合福祉センター
	15	令和4年度児童福祉施設等職員初任者研修会	児童指導員・保育士	沖縄県総合福祉センター
	22	施設機能強化推進費「もの作り～陶芸体験～」	職員 10 名・児童 10 名	島添の丘
	28	フォスタリングチェンジプログラムファシリテーターコンサルテーションデイ	里親支援専門相談員	オンライン開催
	30	第4回里親会主催アートセラピーワークショップ	心理士	沖縄県総合福祉センター

8	1	ブリッジフォースマイル主催オンライン勉強会「地方のアフターケア」	自立支援担当職員	オンライン開催
	3	ライツオン・チルドレンパソコン講座	自立支援担当職員 児童5名	オンライン開催
	4	SBI オンラインイングリッシュイベント 2022	個別対応職員 児童3名	SBI 子ども希望財団 オンライン開催
	8	自立支援プログラム企画	自立支援担当職員 児童4名	オンライン開催
	14	沖縄教育カウンセラー協会 夏期講座～解決思考アプローチワークショップ～	心理士	浦添男女共同参画センター
	20	子どもアドボカシー基礎講座	里親支援専門相談員 児童指導員・心理士	オンライン開催
	20	第5回里親会主催アートセラピーワークショップ	里親支援専門相談員	沖縄県総合福祉センター
	23	第1回権利お話し会(小学生男子)	職員2名・児童3名	島添の丘
	23	第1回権利のお話し会(高校1年生)	職員2名・児童5名	〃
	23	第1回権利のお話し会(高2、3年生)	職員5名・児童7名	島添の丘
	26	第1回権利のお話し会(中学生)	職員2名・児童3名	〃
	27	第1回権利のお話し会(幼児)	職員2名・児童1名	〃
	28	子どもアドボカシー基礎講座	児童指導員 自立支援担当職員	オンライン開催
9	2	第1回権利のお話し会(中学生)	職員2名・児童3名	島添の丘
	4	第1回権利のお話し会(中学生)	職員2名・児童7名	〃
	5	ブリッジフォースマイル主催オンライン勉強会	里親支援専門相談員	オンライン開催
	8	全国自立援助ホーム長研修会後期	主任保育士 里親支援専門相談員	オンライン開催
	10	子どもアドボカシー基礎講座	児童指導員 里親支援専門相談員	オンライン開催
	11	リーダー会第1回話し合い	職員3名・児童12名	島添の丘
	17	第6回里親会主催アートセラピーワークショップ	心理士	沖縄県総合福祉センター
	23	高校生自立に向けたプログラム	職員7名・児童11名	島添の丘
	24	第1回自立支援プログラム	自立支援担当職員 リービング委員会	沖縄県総合福祉センター
10	1	里親会主催自立プログラム SST	里親支援専門相談員 施設長	沖縄県総合福祉センター 沖縄県総合福祉センター
	6	令和4年度県民教養講座「管理職セミナー」		
	8	第67回全国里親会68回関東甲信越静里親協議会やまなし大会1日目 zoom	里親支援専門相談員	オンライン開催
	9	第67回全国里親会68回関東甲信越静里親協議会やまなし大会2日目 zoom	里親支援専門相談員	オンライン開催
	15	外部講師による高校生対象スマホ学習会(14:00～15:30 会議室)	職員13名・児童14名	島添の丘
	16	子どもの虐待防止オンライン講演会	里親支援専門相談員	南城市役所

	18	大里中学校職員との交流会	島添 8 名・大里中 9 名 児童指導員・保育士	島添の丘
	18	ライツオンチルドレンパソコン講座の職員説明会	自立支援担当職員	オンライン開催
	22	第 2 回自立支援プログラム	リーピング委員会	沖縄県総合福祉センター
	28	令和 4 年度後期養子縁組里親基礎研修	里親支援専門相談員	沖縄県総合福祉センター
	29	第 7 回里親会主催アートセラピーワークショップ	里親支援専門相談員	沖縄県総合福祉センター
11	4	職員向けスマホ講習会 オンライン研修	職員 12 名	島添の丘
	7	第 39 回沖縄県児童養護研究大会(オンライン)行政説明・記念講演会 200M(12/2 まで)	児童指導員 保育士・各専門職	沖縄県児童養護協議会
	7	令和 4 年度県民教養講座労働関係セミナー	施設長	沖縄県総合福祉センター
	7	ブリッジフォースマイル施設内での性教育境界線の意識付け	自立支援担当職員	オンライン開催
	9	第 39 回沖縄県児童養護研究大会第 2 研究部会	児童指導員 保育士・調理員	オンライン開催
	13	エンジェルサポート自立支援プログラム「インターネットの使い方」	高校 3 年生 自立支援担当職員	オンライン開催
	14	養育里親更新研修(10:00～16:00 FCW)	里親支援専門相談員	沖縄県社会福祉協議会
	15	全国自立援助ホーム協議会第 27 回鳥取大会	主任保育士	オンライン開催
	16	第 39 回沖縄県児童養護研究大会(オンライン)第 3 研究部会	児童指導員 保育士・専門職	オンライン開催
	19	第 8 回里親会主催アートセラピーワークショップ	里親支援専門相談員	沖縄県総合福祉センター
	19	自立支援プログラム	高校 3 年生 自立支援担当職員	沖縄県総合福祉センター
12	28	第 39 回沖縄県児童養護研究大会(オンライン)第 1 研究部会	児童指導員 保育士・専門職	オンライン開催
	28	【全国経営協】令和 4 年度監事専門講座	監事	オンライン開催
	5	エンジェルサポートオンライン	高校 3 年生	オンライン開催
	5	全養協主催令和 4 年度社会的養護施設長研修	施設長	オンライン開催
	7	全国自立援助ホーム協議会九州ブロックホーム長会	施設長	沖縄県総合福祉センター
	8	ブリッジフォースマイル主催「インケア中の独自の取り組み」	自立支援担当職員 主任保育士	福岡県 沖縄県総合福祉センター
	9	令和 4 年度第 2 回養子縁組・養育里親登録事前研修	里親支援専門相談員	
	10	〃		島添の丘
	11	第 4 回自立支援プログラム	高校生 3 年 職員 2 名	〃 島添の丘
	15	性と生のお話会①	児童 6 名・職員 3 名	〃
	17	性と生のお話会②	児童 4 名・職員 2 名	〃
	17	性と生のお話会③	児童 1 名・職員 4 名	〃
	17	性と生のお話会④	児童 3 名・職員 2 名	〃
	17	性と生のお話会⑤	児童 4 名・職員 2 名	〃
	17	性と生のお話会⑥	児童 5 名・職員 2 名	〃
	17	性と生のお話会⑦	児童 7 名・職員 2 名	〃

	17	性と生のお話会⑧	児童 4 名・職員 2 名	〃
	17	里親会主催第 8 回里親子アートセラピー	職員 1 名	沖縄県総合福祉センター
1	16	ブリッジフォースマイル主催オンライン勉強会「子どもに合わせた制度のフル活用」	自立支援担当職員	オンライン開催
	18	安全運転管理者講習会	主任児童指導員	シュガーホール
	21	第 9 回里親会主催アートセラピーワークショップ	心理士 療育コーディネーター	沖縄県総合福祉センター
	27	令和 4 年度里親登録更新研修	里親支援専門相談員	沖縄県総合福祉センター
2	1	10 代の妊娠・出産・子育て	児童指導員・心理士	オンライン開催
	2	おきなわキャップセンター主催 令和 4 年度児童福祉施設職員	保育士 2 名	愛隣園
	3	等資質向上支援事業「小規模且つ地域分散化に必要な人材を育成するための研修カリキュラム」		美さと児童園
	5	ブリッジフォースマイル zoom「旅立ちセミナー」	高校 3 年生 職員 1 名	オンライン開催
	6	ブリッジフォースマイルオンライン勉強会	自立支援担当職員	オンライン開催
	12	エンジェルサポートオンラインプログラム「働くという事」	児童 4 名	オンライン開催
	17	児童養護施設等資質向上支援事業 CAPWS「子どもとおとなの権利擁護」	施設長・養護課長 保育士・児童指導員	島添の丘
	18	第 10 回里親会主催アートセラピーワークショップ	里親支援専門相談員	沖縄県総合福祉センター
3	26	エンジェルサポートオンラインプログラム「暮らしにかかるお金」	各専門職 27 名 高校 3 年生	オンライン開催
	6	令和 4 年度児童養護施設中堅職員研修	児童指導員 保育士	オンライン開催
	6	ブリッジフォースマイル主催研修「ブリッジフォースマイルのアフターケア」	自立支援担当職員	オンライン開催
	14	性と生のお話会①	児童 4 名・職員 2 名	島添の丘
	15	子どもの「生い立ちの整理」を支援しよう～ライフストーリーワークを学ぶ	里親支援専門相談員 心理士・個別対応職員 自立支援専門相談員	オンライン開催
	19	エンジェルサポートオンラインプログラム	高校 3 年生・職員 1 名	オンライン開催
	21	性と生のお話会②	児童 3 名・職員 2 名	島添の丘
	23	性と生のお話会③	児童 6 名・職員 2 名	〃
	23	性と生のお話会④	児童 6 名・職員 2 名	〃
	24	性と生のお話会⑤	児童 4 名・職員 2 名	〃
	27	性と生のお話会⑥	児童 1 名・職員 4 名	〃
	29	性と生のお話会⑦	児童 4 名・職員 2 名	〃
	30	性と生のお話会⑧	児童 6 名・職員 3 名	〃

5. 令和4年度 行事及び活動状況

月	日	事 項
4	1	新任職員辞令交付式(対象11名)
	1	新任職員着任(対象11名)
	4	新任職員研修(対象11名)
	5	新任職員研修(対象11名)
	6	新任職員研修(対象11名)
	6	合格入進学祝い(児童36名 職員16名)
	7	新任職員研修(対象12名)
	7	里親支援専門相談員連絡会(職員1名)
	7	小中高始業式
	7	県立高校入学式(対象児童6名)
	8	新任職員研修
	8	大里中学校入学式(対象3名)
	9	権利擁護委員会「第3回生と性の学習会」(児童36名)
	11	大里南幼稚園入園式(対象1名)
	11	平良区PTA立哨当番
	13	理事長事務調整
	13	養護課会議
	14	ライオンチルドレン自立支援情報共有会議オンライン(施設長 自立支援担当職員)
	15	平良区PTA立哨当番
	16	沖縄県被虐待児等地域療育支援事業所里子来所
	18	4月美化活動(職員25名)
	18	ケース支援会議(職員6名 島添ホーム)
	18	避難訓練
	19	理事長事務調整
	20	全体職員会議
	21	令和4年度児童相所・里親支援専門相談員4月定例会(FCW)
	21	ケース支援会議オンライン(職員3名 自立)
	22	沖縄シェルター所長後任宮城さん代表横江氏来園施設見学
	23	チャイルドホームナイトウォーク(児童6名 職員5名)
	25	こいのぼり掲揚式(児童10名 職員10名)
	26	令和4年度全国自立援助ホーム協議会総会・ホーム長会(施設長)
	26	南部農林高1年生宿泊研修(糸満青少年の家)
	26	ケース支援会議(職員7名 結スマイル)
	27	ケース支援会議(職員9名 302)
	27	運営委員会
	28	南城市大里支部更生保護女性会来訪
	28	沖縄県被虐待児等地域療育支援事業担当者連絡会議(愛隣園 職員2名)

	28	ケース支援会議(職員 6 名 302 ホーム)
5	2	大里南小学校春の遠足(児童 10 名)
	3	令和 4 年度島添の丘オールスター感謝祭(児童 35 名・職員 30 名)
	6	ケース面談(施設長 結スマイル)
	7	302 ホーム研修(児童 6 名 職員 4 名)
	8	201 ホーム研修(児童 6 名 職員 3 名)
	8	202 ホーム研修(児童 6 名 職員 3 名)
	9	理事長事務調整
	10	ケース支援会議(職員 7 名 結スマイル)
	10	ケース支援会議(職員 2 名 自立)
	10	未成年後見人について弁護士来園(FSW 201 301 302 ホーム)
	11	養護課会議
	12	北中城村要保護児童対策地域協議会(北中城村社会福祉協議会 FSW)
	13	ケース支援会議(職員 7 名 結スマイル)
	15	南部農林高授業参観・PTA 総会
	17	理事長事務調整
	17	ケース支援会議(職員 8 名 チャイルドホーム)
	18	全体職員会議
	18	那覇市要保護児童等地域対策会議(FSW 302 ホーム)
	18	令和 4 年度第 1 回個別対応職員連絡会オンライン(個別対応職員)
	19	避難訓練
	19	沖縄大学児童文化学科山野ゼミ施設見学
	19	沖縄県被虐待児等地域療育支援事業所施設見学
	20	令和 4 年度沖縄県被虐待児等地域療育支援事業オンライン会議
	20	学習・スポーツ委員会主催体育倉庫掃除
	21	令和 4 年度里親家族のためのアートセラピーワークショップ (沖縄県総合福祉センター FCW)
	21	施設機能強化推進事業「上手なインターネットの使い方」(中学生 10 名 高校生 8 名)
	22	真和志高 PTA 総会
	22	南幼稚園 PTA 作業
	23	南部農林高三者面談(201 ホーム)
	23	各ホームテレビ搬入
	23	支援する公監事監査
	23	理事長事務調整
	24	令和 4 年度 沖縄県児童養護協議会第 1 回 協議員会オンライン(施設長)
	24	令和 4 年度南城市要保護児童地域協議会代表者会議(南城市役所庁舎 養護課長)
	24	名護市要保護児童地域対策協議会(名護市役所庁舎 職員 3 名)
	25	令和 3 年度監事監査
	25	301 ホーム研修(児童 5 名 職員 4 名)

26	沖縄県被虐待児等地域療育支援事業担当者連絡会(島添の丘 職員 2 名)
26	ケース支援会議(職員 7 名 302 ホーム)
27	運営委員会
27	令和 4 年度沖縄県児童養護協議会第 1 回研修委員会オンライン(大城主任)
27	ケース合同支援会議(職員 9 名 結スマイル)
28	里親会サロン(沖縄県総合福祉センター FCW)
28	ホテル宿泊体験(1 泊 2 日) 株式会社エフネス「皆で学ぼう! 観光業界」 (那覇ロワジールホテル児童 8 名 職員 3 名)
28	オンライン研修「発達障害のある子どもの家族支援」(職員 15 名)
28	県高校総合体育大会(児童 2 名)
30	令和 4 年度養子縁組・養育里親基礎研修 (沖縄県総合福祉センター)
30	支援する会役員会
30	チャイルドホーム電話関係修理
31	理事長事務調整
31	南城市小中学校公開日
6	1 島添の丘 38 歳誕生日 開園記念日 (児童 36 名 職員 12 名)
1	開園記念の集い(島添の丘 38 歳おめでとう児童 27 名 職員 12 名)
1	養護課会議
2	里親支援相談員連絡会
2	個別支援協力者会議
2	令和 4 年度 6 月里親支援相談員連絡会
3	令和 4 年度南城市社会福祉関係機関・団体連絡会(南城市庁舎 215 号 FCW)
3	調整会議
3	運営委員会
4	中学校第 48 回地区夏季総合体育大会(児童 5 名)
4	チャイルドホーム研修(児童 6 名 職員 5 名)
5	中学校第 48 回地区夏季総合体育大会(児童 5 名)
6	ブリッジフォースマイル主催オンライン勉強会「ステップアップホーム事業の成果」 (自立支援担当職員)
7	理事長事務調整
8	園内研修「オーバードーズのより良い対応方法について」(長田 Dr 職員 20 名)
9	2 階 3 階各部屋個室化ベランダ仕切り工事
9	体育倉庫清掃(学習・スポーツ委員会)
9	令和 4 年度児童福祉施設等職員初任者研修に向けてファシリテーター会議(養護課長)
10	沖縄国際大学 2022(令和 4 年度) 実習指導担当者懇談会(個別対応職員)
10	6 月美化活動
11	チャイルドホームキャンプ (古宇利島 12 日まで児童 6 名 職員 4 名)
12	結スマイルホーム研修(児童 6 名 職員 4 名)
13	令和 4 年度自立支援プログラムに関する会議(沖縄県社会福祉協議会 自立支援担当職員)

13	平良区 PTA 顔合わせ会（平良区公民館 FCW）
13	うるま市要保護児童対策地域協議会(職員 2 名 302)
13	令和 4 年度(福)豊友会第 1 回理事会
14	第 69 回九州児童福祉施設職員研究大会一日目オンライン熊本大会(職員 30 名)
14	名護市役所障害支援課ケース支援会議(職員 3 名 結スマイル)
14	ちゅらフォレスト石田さん米園(自立支援担当職員)
14	キリスト教短期大学ボランティア実習オリエンテーション学生 1 名(個別対応職員)
15	第 69 回九州児童福祉施設職員研究大会二日目 zoom 熊本大会(職員 30 名)
15	2022 年度沖縄大学社会福祉実習第 1 回実習指導担当者会議オンライン（個別対応職員）
15	大里中ケース協力者会議(中学校職員 5 名 児相 1 名 職員 4 名)
16	中央児童相談所令和 4 年度第 1 回施設ケア
16	302 担当国会議
16	児童相談所・里親支援専門相談員 6 月定例会(FCW)
16	大南小授業参観
17	北部地区里親サロン（21 世紀の森体育館 FCW）
17	心理療法担当職員連絡会(心理士)
17	第 3 者委員川西先生なんでも相談(児童 2 名)
18	里親会主催里親子アートセラビー(FCW)
18	算数検定、数学技能検定(対象児童 10 名)
18	301 ホーム研修（児童 5 名 職員 4 名）
19	大南幼稚園 2 組 PTA 作業（児童 1 名 職員 1 名）
20	関係者支援会議 ZOOM(中央 瀬水 にじのしずく)
20	南部地区里親サロン（県総合福祉センター 職員 1 名）
20	島添ホーム宿泊研修(21 日まで 宜野座 名護 児童 3 名 職員 3 名)
21	虹のしずく主催研修「リービングケアからアフターケアへ」（自立支援担当職員）
21	ケース支援会議(ノアーズ 島添の丘 コザ児童相談所)
21	理事長事務調整
21	支援する会評議員会
22	全体職員会議
24	自立援助ホーム施設長会議
24	コザ児童相談所令和 4 年度第 1 回施設ケア
27	やえせ高等支援学校インターンシップ（ユインチホテル 児童 1 名）
28	環境メンテナンス年次定期点検
28	令和 4 年度第 1 回児童養護施設等支援担当者部会オンライン(養護課長)
28	中部地区里親サロン（美さと児童園 FCW）
28	会計月次報告
29	理事長事務調整
29	令和 4 年度(福)豊友会定時評議委員会(職員 3 名 役員 8 名)
30	沖縄県児童養護協議会総会(施設長)
30	家庭裁判所調査官入所児童ホーム職員聞き取り(児童 2 名 職員 2 名 201 201 ホーム)

30	令和4年度児童福祉施設対抗球技大会運営委員会(沖縄県庁 職員1名)
30	避難訓練
7	1 ケース合同支援会議(職員3名 302 ホーム)
	1 プール見守り (職員1名)
	1 沖縄ボッカ寄贈品贈呈式(沖縄県青少年子ども家庭課 施設長)
	1 令和4年度児童養護施設・乳児院・児童相談所との連絡会オンライン(養護課長 施設長)
	1 沖縄県スポーツ少年団バレーボール交流大会(児童1名)
	2 301 担当者会議
	4 ケース支援会議オンライン(職員6名 島添ホーム)
	4 ケース支援会議(職員6名 結スマイル)
	4 ケース支援会議(職員7名 202 ホーム)
	4 南城市「令和4年度お掃除ボランティア協力団体連絡会」(大城主任)
	5 理事長事務調整
	5 沖縄県被虐待児等地域療育支援事業園内会議(職員5名)
	6 大南幼稚園保育公開
	6 沖縄県里親会主催「里親と実親の協働を考える」オンライン(FCW)
	6 養護課会議
	6 学習スポーツ委員会主催第1回園内模試(児童3名 職員3名)
	7 里親支援専門相談員連絡会(FCW)
	7 ケース合同支援会議(中央児童相談所 職員4名 202 ホーム)
	7 学習スポーツ委員会主催第2回園内模試(児童3名 職員3名)
	8 キャンプ実行委員会
	8 調整会議
	8 避難訓練
	8 令和4年度南城市要保護児童対策地域協議会第1回実務者会議(職員1名)
	8 令和4年度沖縄女子短大実習オリエンテーション (金城主任)
	9 ケース合同支援会議オンライン(心理士1名 結スマイル)
	11 入所予定児童グループホーム見学(児童1名 職員2名 結スマイル)
	11 理事長事務調整
	11 支援する公事務局会議(職員5名 役員1名)
	12 令和4年度第2回家庭支援専門相談員連絡会(なごみ FSW)
	12 施設機能強化推進園内研修スマホ勉強会 ネットリテラシー講座 (職員31名)
	12 令和4年度児童福祉施設等職員初任者研修会第2回 ファシリテーター打ち合わせ (沖縄県総合福祉センター 養護課長)
	13 沖縄県被虐待児等地域療育支援事業主催関係者会議(職員3名)
	13 沖縄県被虐待児等地域療育支援事業所 長田 Dr 定期訪問オンライン(職員2名)
	13 全体職員会議(30名)
	14 令和4年度第1回養子縁組・養育里親登録前研修1日目(県総合福祉センター(FCW)
	14 ケース調整会議うるま市立中原小学校(FSW 302 ホーム)
	15 令和4年度児童福祉施設等職員初任者研修会沖縄県社会福祉協議会(職員6名)
	15 令和4年度第1回養子縁組・養育里親登録前研修1日目 県総合福祉センター(FCW)

16		「令和4年度お掃除ボランティア」南城市社会福祉協議会(職員7名 児童4名)
18		302 ホーム花火大会(児童6名 職員3名)
19		沖縄女子短期大学施設実習1G 入る
19		ケース支援会議(職員6名 201 ホーム)
19		沖縄県児童養護施設等課長級会議(養護課長)
19		心理プログラム発表会(ノアーズガーデン 心理士)
20		小中高1学期終業式 大南幼稚園1学期終業式(個人用アルバム撮影)
20		建築について意見交換会(美さと前施設長 宮城氏 理事長事 施設長)
20		養護課会議
20		貞和志高校教頭他1名来園
22		施設機能強化推進ものづくり体験「陶芸ワークショップ」(児童10名 職員10名)
26		理事長事務調整 月次報告
26		令和5年度1学期末反省会(児童24名 職員12名)
27		ケース支援会議 コザ児童相談所 母面談(児童1名 職員2名 201 ホーム)
27		沖縄県被虐待児等地域療育支援事業所 長山 Dr 定期訪問オンライン(職員1名)
28		沖縄県被虐待児等地域療育支援事業所主催オープンキャンパス里親(職員1名)
28		調整会議
28		沖縄県被虐待児等地域療育支援事業 里親連絡会(職員2名)
28		沖縄女子短期大学施設実習1G 反省会
28		フォスターリングチェンジプログラムファシリテーターコンサルテーションデイ(FCW)
29		7月美化活動
30		令和4年度小児生活習慣病予防健診(児童6名)
30		令和4年度第3回里親会主催里親子アートセラピーワークショップ(FCW)
8	1	沖縄県「社会的養護自立支援事業等の実施について」三者会議 (島添の丘 沖縄県 にじのしずく)
	1	沖縄県森田主査「島添の丘建築について」意見交換会(施設長 養護課長)
	1	沖縄県被虐待児等地域療育支援事業所里親来所
	1	ケース支援合同セッション(ノアーズ 職員3名 302 ホーム)
	1	宮城長栄さんよりアイスクリームの寄贈
	1	沖縄県被虐待児等地域療育支援里親担当 FCW 来所
	1	ブリッジフォースマイル主催オンライン勉強会「地方のアフターケア」(支援担当職員)
	1	YK 君息吹公演のため福島県へ出発(14日まで)
	2	自立支援プログラムに関するオンライン会議(自立支援担当職員)
	2	理事長事務調整
	2	児童面談コザ児童相談所 担当ワーカー(201 ホーム)
	3	養護課会議
	3	ケース施設長面談(302 ホーム)
	3	ケース支援会議(職員5名 結スマイル)
	3	家庭教師に関するオンライン会議(自立支援担当職員)
	3	ライツオン・チルドレンパソコン講座(児童4名 自立支援担当職員)
	4	令和4年度里親支援専門相談員8月連絡会(FCW)

- 4 SBI オンラインイングリッシュイベント 2022(児童 3 名 職員 1 名)
- 4 エレベーター保守点検(厨房 リフト)
- 4 職場見学(幼児体操教室 那覇市民体育館 児童 1 名 島添ホーム)
- 4 ケース支援会議(職員 6 名 結スマイル)
- 4 東京スター銀行奨学金事前説明会(児童 3 名 自立支援担当職員)
- 4 母子面談(職員 2 名 結スマイル)
- 4 201 ホームソファ移動(西富建設クレーン活用)
- 5 令和 4 年度第 1 回養子縁組養育里親登録前施設実習一日目(3 世帯 4 名 FCW)
- 5 結スポレク大会(知念体育館 児童 6 名 職員 4 名)
- 6 令和 4 年度相談援助実習(沖縄国際大学 沖縄大学)
- 6 調整会議
- 6 KU さん YO さん息吹公演のため福島県へ出発(14 日まで)
- 6 令和 4 年度第 1 回養子縁組養育里親登録前施設実習二日目(3 世帯 4 名(FCW)
- 7 令和 4 年度第 1 回養子縁組養育里親登録前施設実習三日目(3 世帯 4 名(FCW)
- 8 自立支援プログラムブレ企画(児童 5 名 職員 2 名)
- 8 自立：全国自立援助ホーム九州ブロックオンライン意見交換会(職員 3 名)
- 9 ST 若いぶき公演のため福島県へ出発(14 日まで)
- 9 沖縄県被虐待児等地域療育支援園内調整会議(職員 5 名)
- 10 全体職員会議(15 名)
- 10 沖縄県被虐待児等地域療育支援事業所 長田 Dr 定期訪問(職員 2 名)
- 12 調整会議
- 15 第 3 者委員川西先生なんでも相談(児童 1 名)
- 15 コザ児童相談所担当ケース面談(児童 10 名)
- 16 理事長事務調整
- 18 サマーキャンプ(一泊二日 県民の森)
- 18 令和 4 年度児童相談所・里親支援専門相談員定例会(FCW)
- 18 南城市社会福祉関係機関・団体「地域福祉担当者会議」(南城市庁舎大会議室 施設長)
- 20 令和 4 年度子どもアドボカシー基礎講座オンライン(職員 4 名)
- 20 第 4 回里親会主催アートセラピーワークショップ(FCW)
- 20 南部地区里親サロン(FCW)
- 22 職業体験(ユインチホテル南城 児童 1 名 自立支援担当職員 201 ホーム)
- 22 中央児童相談所担当ケース面談(児童 22 名)
- 22 建築について情報交換会(沖縄県庁子ども家庭課 施設長 庶務課長 養護課長)
- 22 201 ホーム海水浴(美らサンビーチ 児童 6 名 職員 3 名)
- 23 理事長事務調整
- 23 母子面談(中央児童相談所 FSW 202 ホーム)
- 23 ケース支援会議(職員 6 名 結スマイル)
- 23 チャイルドホーム夏休みの思い出作り(あざまサンサンビーチ 児童 6 名 職員 2 名)
- 23 新ケースホーム職員面会
- 23 権利お話し会(小学生男子 4 名 高校 1 年生 4 名 高 2、3 生 9 名)
- 24 ケース進路面談(施設長 302 ホーム)
- 24 沖縄大学相談援助実習巡回訪問(沖縄大学 山野先生)

- 24 ケース施設長面談(結スマイル)
- 24 園内検診(みなみのクリニック 外間 Dr 児童 36 名)
- 24 ケース支援会議(職員 7 名 結スマイル)
- 25 令和 4 年度沖縄県児童養護施設協議会第 2 回研修員会オンライン(大城主任)
- 25 新ケース入園(302 ホーム)
- 25 権利お話し会(中学生男子 7 名 小学生女子 4 名 中学生女子 5 名)
- 26 南城市要保護対策地域協議会個別支援会議(南城市庁舎 3 階 職員 3 名 結スマイル)
- 27 鬼鷲バスツアー(首里城→玉城 児童 8 名 職員 2 名)
- 28 令和 4 年度子どもアドボカシー基礎講座オンライン(4 名)
- 29 幼小中 2 学期始業式(給食あり・13:45 下校)
- 29 新ケース施設見学(ノアーズ職員 児童相談所)
- 29 新ケース支援会議(大里中 島添)
- 30 理事長事務調整 月次報告
- 30 ケース評価会(職員 5 名 302 ホーム)
- 30 支援会議(職員 10 名 202 301 ホーム)
- 30 避難訓練(児童 28 名 職員 16 名)

9

- 1 令和 4 年度 9 月里親会主催専門相談員連絡会(FCW)
- 1 新ケース入園ホーム歓迎会(202 ホーム 301 ホーム)
- 2 調整会議
- 2 沖縄大学相談援助実習山野先生訪問
- 2 新ケース中学校訪問挨拶(202 ホーム 301 ホーム)
- 6 自立支援プログラムに関する会議オンライン(自立支援担当職員)
- 6 沖縄国際大学相談援助実習報告会 2 名(職員 13 名)
- 7 里親専門職員連絡会(FCW)
- 7 大里南小学校修学旅行説明会(児童 2 名 職員 2 名)
- 7 養護連絡会議
- 7 鬼鷲練習(児童 8 名 職員 2 名)
- 8 消防設備の保守点検
- 8 令和 4 年度全国自立援助ホーム長研修会後期オンライン(施設長)
- 9 里親会ミニサロン(沖縄県総合福祉センター FCW)
- 9 全国自立援助ホームオンライン交流会(職員 3 名)
- 10 島添の丘女子バレー部 VS 島添職員練習試合&BBQ
(知念体育館児童 36 名、職員 15 名)
- 11 リーダー会第 1 回話し合い(児童 12 名、職員 3 名)
- 12 運営委員会
- 13 理事長事務調整
- 13 令和 4 年度第 3 回家庭支援相談員連絡会(石嶺児童園 FSW)
- 13 にじのしずくとの連絡会 zoom(自立支援担当職員)
- 15 児童相談所里親支援専門相談員 9 月定例会(中央児童相談所 FCW)
- 15 沖縄大学相談援助実習報告会 3 名(職員 15 名)
- 16 中部地区里親サロン(美さと児童園 FCW 心理上)

16	第3者委員川西先生なんでも相談(児童1名)
17	島添の丘野球部 VS 職員練習試合&BBQ(児童14名、職員12名)
17	里親会主催アートセラピーワークショップ(県総合福祉センター FCW 心理士)
18	結スマイルお泊り19日まで(金武町商工会保養施設 児童5名 職員4名)
20	理事長事務調整
20	FSW アフターケア(長崎22日まで)
21	沖縄県被虐待児等地域療育支援事業担当者連絡会(愛隣園 職員3名)
23	大里中学校ふるさと伝統芸能まつり(平良区出演 児童3名)
23	高校生自立に向けたプログラム(高校生14名 リービング委員会8名)
23	チャイルドホーム年長男子サイクリング in 金武町 24日まで(児童2名 職員2名)
24	第1回自立支援プログラム(県総合福祉センター 児童5名 職員2名)
24	リーダー会第2回話し合い(児童12名 職員3名)
25	301 ホーム津堅島サイクリング(児童5名 職員4名)
27	理事長事務調整 会計月次報告
27	令和4年度社会的自立支援委託契約(沖縄県子ども家庭課 森田主査来園)
28	避難訓練
29	沖縄大学相談援助実習報告会1名(職員12名)
29	沖縄県要保護児童地域対策協議会支援会議オンライン(302 ホーム FSW)
10	1 令和4年度里親会主催自立プログラム SST(県総合福祉センター 児童4名 職員2名)
	1 201 キャンプ福地川キャンプ場 2日まで(児童6名 職員5名)
	2 大里南幼稚園運動会(大里南小学校グラウンド 児童1名 職員2名)
	3 令和4年度10月里親支援相談員連絡会(袋中国 FCW)
	3 令和4年度ライオンチルドレン情報共有会オンライン(自立支援担当職員)
	3 ブリッジフォースマイル主催「外部団体との連携について」オンライン(自立支援担当職員)
	3 令和4年度第1回社会的養護自立支援について(沖縄県総合福祉センター 施設長)
	4 理事長事務調整
	4 里親会創立50周年記念事業上映会「育ててくれて、ありがとう」(てだこホール FCW)
	6 令和4年度沖縄県民教養講座「管理職セミナー」(県総合福祉センター 施設長)
	7 令和4年度沖縄県児童養護協議会第1回施設団体長部会オンライン(施設長)
	8 第67回全国里親会68回関東甲信越静里親協議会やまなし大会1日目オンライン(FCW)
	8 10月美化活動
	9 第67回全国里親会68回関東甲信越静里親協議会やまなし大会2日目オンライン(FSW)
	9 202 ホーム海水浴(美々ビーチ 児童8名 職員3名)
	10 ヒルトンホテル招待プール&ランチ(那覇市 児童13名 職員6名)
	10 令和4年度全国自立援助ホーム九州ブロック オンライン意見交換会(職員2名)
	11 自立支援プログラム実行委員会会議 zoom(自立支援担当職員)
	12 全体職員会議
	13 避難訓練(児童12名 職員7名)
	13 令和4年度南城市社会福関係団体連絡会「幹事会」(FCW)
	15 園内研修外部講師による高校生対象スマホ学習会(会議室 児童14名 職員13名)
	15 令和4年度児童リーダー会主催「観月会&ハロウィン」(会議室 児童37名 職員23名)

17	令和4年度アフターケアネットワーク会議(県総合福祉センター 自立支援担当職員)
18	令和4年度沖縄県児童福祉球技交流会運営委員会 zoom(職員2名)
18	令和4年度大里中学校職員との交流会(大里中学校職員9名 島添の丘職員10名)
19	令和4年度大里南小学校職員との交流会(大里南小学校職員15名 島添の丘職員14名)
19	第2回個別担当職員連絡会議オンライン(個別対応職員)
20	令和4年度里親支援児関係機関との連絡会オンライン(FCW)
22	令和4年度第2回自立支援プログラム(県総合福祉センター児童4名 職員2名)
22	南部地区里親サロンハロウィン交流会(県総合福祉センター FCW)
23	RBC「18の旅立ち」高校3年生インタビュー(児童4名)
23	ヒルトンホテル招待プール&ランチ(那覇市 児童13名 職員4名)
25	園内模試(児童2名 職員4名)
26	園内模試(児童2名 職員4名)
26	令和4年度沖縄県社会福祉大会(コンベンションセンター施設長 養護課長 庶務課長)
27	理事長事務調整
27	令和4年度第2回理事会
28	令和4年度後期養子縁組里親基礎研修(県総合福祉センター FCW)
28	JA 沖縄ハロウィンお菓子の寄贈
29	漢字検定(児童9名)
29	里親会主催第6回アートセラピーワークショップ(県総合福祉センター FCW 心理上)
30	令和4年度大里南小体育発表会(大里南小学校グラウンド 児童8名 職員6名)
30	結スマイルホーム祭り見学(浦添市 児童6名 職員2名)
30	301 ホーム祭り見学(浦添市 児童6名 職員4名)
31	理事長事務調整
11	1 世界のウチナーンチュ大会 in 南城アトラクション(ユインチホテル南城 鬼鷲児童7名)
4	南城市商工会主催ゴルフコンペ(守礼ゴルフクラブ 施設長 養護課長)
4	職員向けスマホ講習会(会議室 職員12名)
5	令和4年度児童福祉施設球技交流会 (与那原東小学校体育館、運動場 児童37名 職員22名)
6	尚巴志マラソン (児童14名 職員7名参加)
7	令和4年度11月度里親支援専門員連絡会(石嶺児童園 FCW)
7	自立支援プログラム実行委員会会議(自立支援担当職員)
7	第39回沖縄県児童養護研究大会・行政説明・記念講演会オンライン(12/2まで 40名)
7	令和4年度県民教養講座労働関係セミナー(県総合福祉センター 施設長)
7	ブリッジフォースマイル主催オンライン勉強会 「施設内での性教育境界線の意識付け」(職員1名)
8	理事長事務調整
8	令和4年度児童養護施設施設職員等資質向上支援事業オンライン(職員3名)
8	家庭支援専門相談員連絡会(愛隣園 FSW)
9	全体職員会議
9	全国自治体病院学会県民公開講座リハーサル(なはーと 鬼鷲児童8名)
9	第39回沖縄県児童養護研究大会(オンライン)第2研究部会オンライン(職員)

9	沖縄県被虐待児地域養育支援事業所 長田 Dr 定期訪問オンライン(職員 2 名)
11	全国自立援助ホーム九州ブロック オンライン意見交換会(職員 1 名)
13	エンジェルサポート自立支援プログラム「インターネットの使い方」オンライン (児童 5 名 職員 3 名)
14	養育里親更新研修(沖縄県社会福祉協議会 FCW)
15	全国自立援助ホーム協議会第 27 回鳥取大会 1 日目オンライン(職員 1 名)
15	理事長事務調整
16	社会福祉法人の地域における役割についてオンライン(職員 2 名)
16	第 39 回沖縄県児童養護研究大会第 3 研究部会オンライン(職員)
16	全国自立援助ホーム協議会第 27 回鳥取大会 2 日目オンライン(職員 2 名)
17	令和 4 年度子育てサポーター養成講座(南城市役所 施設長)
17	児童相談所・里親支援専門員定例会(コザ児童相談所 職員 1 名)
17	オープンスペース里親(美里児童園 職員 2 名)
18	高校 3 年生自活訓練プログラム(与那原町旧チャイルド 児童 1 名)
18	第三者委員川西康裕先生なんでも相談(苦情ボックス中身確認)
18	令和 4 年度南城市要保護児童対策地域協議会実務者会議(職員 1 名)
19	里親会主催第 7 回里親子アートセラビー(県総合社会福祉センター FCW)
19	沖縄国際カーニバル(沖縄市ミュージックタウン音楽広場 鬼鷲メンバー児童 8 名)
19	令和 4 年度第 3 回自立支援プログラム(県総合社会福祉センター 児童 5 名 職員 2 名)
19	302 ホームイルミネーション見学(東南植物楽園 児童 5 名 職員 4 名)
21	理事長事務調整
22	九州施設長ゴルフ交流会(パームヒルズゴルフリゾートクラブ 施設長 養護課長参加)
22	南城市社会福祉関係機関・団体連絡会「地域福祉担当者会議」(南城市庁舎 職員 2 名)
24	オープンスペース里親オンライン(鳥添の氏会議室)
26	琉球ゴールデンキングス観戦(沖縄アリーナ 児童 24 名 職員 23 名)
27	美ら島国民文化祭閉会式アトラクション(那覇文化芸術劇場なはーと 鬼鷲 7 名)
27	エンジェルサポートオンラインプログラム「暮らしの契約と法律」(児童 5 名)
28	第 39 回沖縄県児童養護研究大会オンライン第 1 研究部会(職員)
28	全国経営協 令和 4 年度監事専門講座オンライン(島袋監事受講)29 日まで
29	令和 4 年度第 2 回沖縄県児童養護施設課長級会議(中央児童相談所)
30	理事長事務調整
30	施設見学(沖縄大学人文学部子ども文化学科 学生 8 名 教員 1 名)
12	1 令和 4 年度第 2 回中央児童相談所施設ケア
	2 第 39 回南城市大里新春もちつき大会第 1 回協力者会議
	3 OKINAWA AMERICANA チャリティーライブ (CLUB LEGION)
	4 平良区草刈り
	4 中部地区里親サロン(沖縄市福祉センターかりゆし園 FCW)
	4 エンジェルサポートオンライン「進学について」オンライン(児童 4 名)
	5 令和 4 年度 12 月里親支援専門相談連絡会 (ならさ 6 日まで FCW)
	5 全養協主催令和 4 年度社会的養護施設長研修 zoom
	5 ブリッジフォー・スマイル主催オンライン勉強会「インケア中の独自の取り組み」

- 6 中央児童相談所八重山分室・ファミリーホーム視察、意見交換会(FCW)
- 7 寄付金贈呈(おきでんボランティア互助会様)
- 7 全国自立援助ホーム協議会九州ブロックホーム長会(福岡県 職員 1 名)
- 8 避難訓練
- 8 南城市社会福祉関係機関・団体連絡会・幹事会(市役所庁舎 FCW)
- 8 令和 4 年度第 2 回養子縁組・養育里親登録事前研修 1 日目(県総合福祉センター FCW)
- 9 令和 4 年度第 2 回養子縁組・養育里親登録事前研修 2 日目(県総合福祉センター FCW)
- 9 令和 4 年度第 2 回コザ児童相談所施設ケア
- 9 ケーキの寄贈(マニユウ様)
- 9 高校 3 年生自活訓練プログラム(与那原町旧チャイルド 児童 1 名)
- 10 沖縄航空連合の皆さんとの交流会(那覇空港 児童 34 名 職員 10 名)
- 11 令和 4 年度第 4 回自立支援プログラム(県総合福祉センター 児童 5 名 職員 2 名)
- 12 レスターミドルスクール交流会
- 14 全体職員会議
- 14 長田 Dr 定期訪問 ZOOM
- 15 児童相談所・里親支援専門相談員 12 月定例会(コザ児童相談所 FCW)
- 15 沖縄アメリカーナさんとボランティアさんとの舞台設営&草刈り作業(職員 18 名)
- 16 児童福祉施設等心理療法担当職員連絡会(職員 2 名)
- 16 高校 3 年生自活訓練プログラム(与那原町旧チャイルド 児童 1 名)
- 17 アートセラピー(県総合福祉センター ここサボ)
- 17 沖縄アメリカーナさんとのクリスマス交流会(児童 38 名 職員 13 名)
- 17 南部地区里親サロン(県福祉ゆいホール FCW)
- 18 CAP 子ども虐待防止オンライン講演会
- 20 自立支援プログラム反省会オンライン(自立支援担当職員)
- 21 冬季児童養護施設対抗スポーツ大会実行委員会(石嶺児童園 職員 1 名)
- 21 施設訪問(GOLF Team KUKURU クリスマスチャリティ活動 選手 4 名 スタッフ 2 名)
- 21 理事長事務調整
- 22 ヘルプオキ様プレゼント寄贈
- 22 クリスマスプレゼント寄贈(セリーヌ沖縄 砂川様他 3 名)
- 22 ケーキの寄贈セブンイレブン様
- 22 サンタプロジェクト様からのプレゼント寄贈
- 23 JA おきなわ様よりケーキの寄贈
- 23 琉球銀行様よりケーキの寄贈
- 23 比嘉さん個人様よりケーキの寄贈
- 24 令和 4 年度島添の丘クリスマス会(児童 37 名 職員 17 名)
- 24 航空連合さんからのケーキの寄贈
- 25 サンタラン(児童 34 名 職員 18 名)
- 25 202、301 ホーム合同ナイトウォーク(27 日まで知念岬公園 児童 11 名 職員 7 名)
- 26 201 ホーム大掃除(児童 5 名 職員 2 名)
- 26 結スマイル中高校生会(児童 2 名 職員 1 名)
- 27 NHK 歳末たすけあい募金自立支援金(沖縄県総合福祉センター 自立支援担当職員)

	27	令和4年度2学期末反省会(児童34名 職員21名)
	28	御用納め
	29	令和4年度島添の丘忘年会
1月	4	仕事始め
	5	里親支援専門相談員連絡会(沖縄県社会福祉協議会 FCW)
	5	書初め大会(島添の丘 児童34名 職員15名)
	6	大里南小学校中学校各高校3学期始業式
	8	成人式振り袖披露で関係者宅訪問(自立利用者1名 職員1名)
	11	美化活動
	11	食品衛生講習(南部保険事務所 栄養士)
	12	理事長事務調整
	13	里親登録前施設実習1日目1世帯2名(FCW)
	14	里親登録前施設実習2日目1世帯2名(FCW)
	15	第39回南城市大里新春もちつき大会・島添の丘バザー(児童 職員 ボランティア)
	16	ブリッジホースマイル主催オンライン勉強会「子どもに合わせた制度のフル活用」 (自立支援担当職員)
	17	公益法人島尻青年会議所第68回通常総会(南風原中央公民館 施設長)
	18	安全運転管理者講習会(シュガーホール 大城主任)
	18	高機能化に必要な人材育成研修(沖縄県社会福祉協議会 職員3名)
	19	児童相談所、里親専門1月定例会(中央児童相談所 FCW)
	21	沖縄県里親会創立50周年記念式典(沖縄県社会福祉協議会 ゆいホール 施設長 FCW)
	23	令和4年度沖縄里親委託等推進委員会(コザ児童相談所 FCW)
	23	にじのしずく名幸さん高3生面談(児童2名)
	24	にじのしずく名幸さん高3生面談(児童2名)
	24	支援会議(コザ児童相談所 201)
	25	令和4年度第2回児童福祉施設対抗スポーツ大会実行委員会(石嶺児童園 職員2名)
	25	キリ短実習生オリエンテーション(金城主任)
	26	こころサポート事業担当者連絡会(沖縄県社会福祉協議会 職員2名)
	27	令和4年度里親登録更新研修(沖縄県社会福祉センター 東棟4階402研修室 FCW)
	27	DY 若家庭復帰(201 ホーム)
	27	成年祝い(会議室 児童32名 職員12名)
	29	南城市学校公開日
	30	避難訓練
	31	理事長事務調整・月次報告
	31	運営委員会
2	2	おきなわキャップセンター主催 令和4年度児童福祉施設職員等資質向上支援事業 「小規模且つ地域分散化に必要な人材を育成するための研修カリキュラム」 (愛隣園 職員2名)
	3	おきなわキャップセンター主催 令和4年度児童福祉施設職員等資質向上支援事業 「小規模且つ地域分散化に必要な人材を育成するための研修カリキュラム」

- 3 大里中学校新入生オリエンテーション(大里中学校 児童 2 名 職員 2 名)
- 3 第 39 回大里新春もちつき大会バザー協力者会議(会議室 職員 9 名 14 名)
- 3 琉球歴史浪漫絵巻彩りの首里城と琉球芸能の夕べ (首里城公園 児童 2 名 職員 1 名)
- 4 第 33 回児童養護施設等スポーツ大会(玉城総合体育館・玉城中学校 児童 34 名職員 20 名)
- 6 第 2 回アフターケアに関する施設長会議(社会福祉協議会 施設長)
- 6 ブリッジフォースマイルオンライン勉強会」オンライン(自立支援担当職員)
- 7 里親支援専門相談員 2 月連絡会(袋中園 FCW)
- 7 理事長事務調整 (11:00~12:00)
- 7 ケース施設長面談(島添ホーム)
- 7 ケース支援会議(ノアーズにて 職員 3 名 302 ホーム)
- 7 琉球大学ソーシャルワーク実習オリエンテーション(職員 1 名)
- 8 県立高校一般入試願書受付 (職員 1 名)
- 8 301 ホーム入所予定児童の情報共有(10:30 会議室 301 ホーム)
- 9 拡大運営委員会 11 月(会議室 職員 16 名)
- 9 2022 年度沖縄大学相談援助実習担当者会議及び実習報告会オンライン(個別対応)
- 10 拡大運営委員会 2 日目(会議室 職員 18 名)
- 11 高校受験前園内面接(会議室 児童 1 名 職員 3 名)
- 11 自立支援プログラム沖縄電力主催調理 IH 体験(高校生 11 名)
- 11 こころサポート事業里親来所(職員 2 名)
- 11 ライオンチルドレンパソコン講座事前説明会(高 3 生 4 名)
- 11 琉球王尚巴志伝リハーサル(沖縄市民劇場 児童 8 名 職員 2 名)
- 12 エンジェルサポートオンラインプログラム「働くという事」(高 3 生 4 名 職員 3 名)
- 12 琉球王尚巴志伝本番(沖縄市民会館大ホール昼公演 12 時半開場 13 時開演
夜公演 16 時半開場 17 時開演 児童 8 名 職員 20 名)
- 13 令和 4 年度第 2 回養育・養子縁組里親更新研修(沖縄県総合福祉センター FCW)
- 13 アフターケアネットワーク会議(県総合福祉センター 自立支援担当職員)
- 14 新ケース共有会議・面会(コザ児童相談所 職員 3 名)
- 14 令和 4 年度第 5 回家庭支援専門相談員連絡会(青雲寮 FSW)
- 14 理事長事務調整 (16:00~17:00)
- 14 自立利用者 SH さん奥歯抜歯手術(琉大附属病院 16 日まで)
- 15 実習生園長講話
- 15 長田 DrSV(こころサポート事業)
- 15 令和 4 年度第 3 回個別対応職員連絡会の開催について(若夏学院 個別対応職員)
- 15 県立高校志願変更申し出 (～16 日)
- 15 沖縄県パチンコ・スロット協同組合からの寄贈
- 16 児童相談所・里親支援専門相談員 2 月定例会(コザ児童相談所 FCW)
- 16 避難訓練
- 17 調整会議
- 17 園内研修：児童養護施設等資質向上支援事業 CAPWS「子どもとおとなの権利擁護」
(会議室 職員 23 名)
- 17 支援金贈呈渡口様

17	ライオンチルドレンパソコン講座会場下見来園(会議室 自立支援担当職員)
17	退園ケース支援会議(職員 3 名 201 ホーム)
17	第三者委員川西先生なんでも相談(児童 2 名)
17	2022(令和 4 年度)第 2 回「相談援助実習及び精神保健福祉援助実習」実習指導担当者 オンライン(個別対応職員)
18	アートセラピー(沖縄県社会福祉センター職員 2 名)
18	数学・算数検定(児童 3 名スポーツ委員会)
18	沖縄主催子供向けイベント(沖縄セルラー本社ビル児童 20 名 職員 6 名)
18	「社会福祉協議会における困難を抱える子どもや子育て家族に対する支援を探る」 オンライン(沖縄大学 3 号館)
18	ライオンチルドレンパソコン講座(会議室 高 3 生 4 名)
18	心サポート事業所里子来所
19	ヘルプオキ主催スーツのプレゼント(沖縄ライカム 高 3 生 4 名 職員 2 名)
21	理事長事務調整
21	全国自立援助ホーム協議会茶話会 zoom(職員 2 名)
21	パンの寄贈(35 個)
21	児童弁護士面談(301 ホーム)
22	RBC ラジオ 18 の旅立ちインタビュー (高 3 生 4 名)
24	ケース施設長面談(202 ホーム)
24	令和 4 年度南城市地域ケア会議「生活支援体制整備第一層協議体・包括ケア会議」 (南城市役所 FCW)
24	受験生面接練習(会議室 児童 1 名 職員 4 名)
24	鬼驚活動報告会(会議室 児童 23 名 職員 11 名)
25	北部地区里親サロン(看護市 FCW)
26	エンジェルサポートオンラインプログラム「暮らしにかかるお金」(会議室 高 3 生 4 名)
27	令和 4 年度第 3 回理事会
28	理事長事務調整
28	県立高校卒業式予行演習
28	沖縄大学福祉文化学科山野ゼミ施設見学 6 名
28	THANKS(サンクス)運動県民福祉講演会(ダブルツリーヒルトン那覇首里城 施設長)
3	1 県立高校卒業式 (児童 4 名 職員 4 名)
	1 こころサポート事業所会議(愛隣園 職員 2 名)
	2 南城市社会福祉関係機関・団体連絡会(南城市庁舎 FCW)
	2 里親研修及び支援体制検討会(中央児童相談所 FCW)
	3 理事長事務調整月次報告
	3 高 3 生施設長との進路面談 (児童 2 名)
	4 結スマイル小学生会(県総合運動公園 児童 3 名 職員 1 名)
	5 エンジェルサポートプログラム(会議室 高 3 生 4 名)
	6 令和 4 年度児童養護施設中堅職員研修(動画配信：15 日まで職員 3 名)
	6 302 202 ホーム水道工事
	6 厨房消毒

- 6 ブリッジフォースマイル主催オンライン勉強会「ブリッジフォースマイルのアフターケア」
(自立支援担当職員)

7 里親支援専門相談員 3 月連絡会(美さと児童園 FCW)

7 権利擁護委員会主催園内研修事例検討(会議室 職員 2 3 名)

7 県立高校一般入試 1 日目 (児童 1 名)

8 県立高校一般入試 2 日目 (児童 1 名)

8 南幼稚園お別れ遠足(本部公園 児童 1 名)

8 職場体験(美容室 8 自立支援担当職員 302 ホーム)

9 職場体験(美容室 8 自立支援担当職員 302 ホーム)

9 沖縄県中華協会から夕食のプレゼント(児童 34 名 職員 15 名)

9 南城市要保護児童対策地域協議会第 3 回実務者会議(南城市庁舎 職員 1 名)

9 令和 4 年度沖縄県児童養護協議会第 2 回協議委員会(沖縄県総合福祉センター 施設長)

10 大里中学校第 75 回卒業式 (児童 1 名 職員 2 名)

10 調整会議

11 201 ホームキャンプ 12 日まで (県民の森 児童 5 名 職員 4 名)

12 大中サッカー部 3 年生送る会(児童 2 名)

13 タンク清掃

13 自立支援促進事業について「NPO 法人夢の宝箱」(南城市役所 3 F 商工課会議室 職員 3 名)

13 「NPO 法人夢の宝箱」施設訪問(会議室 職員 3 名)

14 南部地区里親サロン(コミュニティー広場 Anne FCW)

14 理事長事務調整

15 県立高校合格発表(児童 2 名合格)

15 オキハンズさん商品券贈呈(高 3 生 4 名)

15 子どもの「生い立ちの整理」を支援しよう～ライフストーリーワーク～
オンライン(職員 1 名)

15 令和 4 年度児童養護施設中堅職員研修(動画配信終了 職員 3 名)

16 児童相談所・里親支援相談員 3 月定例会(中央児童相談所 FCW)

16 珠琉さん泊高校受講手続き

16 新ケース施設見学コザ児童相談所

16 ここサポペアレントプログラム研修(愛隣園 職員 2 名)

17 大南幼稚園卒園式 (大里環境改善 C ホール児童 1 名 職員 2 名)

17 調整会議

18 い〜鳥農園(伊江島 児童 20 名 職員 12 名)

18 中部地区里親サロン(宜野座 職員 3 名)

19 エンジェルサポートオンラインプログラム(会議室 高 3 生 4 名)

20 大里南小学校卒業式 (児童 2 名 職員 2 名)

20 理事長事務調整

20 令和 4 年度 沖縄県児童養護協議会 第 2 回 総会並びに 第 2 回 施設団体長部会
オンライン(施設長)

20 母子交流(コザ児童相談所 301 ホーム)

20 琉銀ゆいまーる支援金贈呈式(16:00 琉銀東風平支店 職員 2 名 高 3 生 4 名)

21 生と性のお話会(休憩室 小学生女子 4 名)

- 22 琉球大学ソーシャルワーク実習報告会(会議室 職員 10 名)
- 22 長田 DrSV(職員 2 名)
- 22 運営委員会
- 22 親子交流(中央児童相談所 結スマイル)
- 22 支援金の贈呈 吉武氏(会議室 高 3 生 4 名 OBOG4 名 職員 3 名)
- 23 生と性のお話会(会議室 小学生男子 4 名)
- 23 こころサポート担当者連絡会(ここサポしまぞえ職員 2 名)
- 23 令和 4 年度第 4 回理事会
- 23 生と性のお話会(14:00～14:45 小学生男子)
- 23 母子交流(コザ児童相談所 301 ホーム)
- 24 令和 4 年度島添の丘壮行激励会(児童 34 名 職員 25 名)
- 24 生と性のお話会(会議室 中学生女子 4 名)
- 28 理事長事務調整
- 28 令和 4 年度 3 学期末反省会(児童 35 名 職員 21 名)
- 28 301 ホーム支援会議(会議室 職員 8 名)
- 29 新ケース 4 者会議(真和志高校 職員 2 名)
- 29 生と性のお話会(会議室 高校生男子 6 名)
- 29 新ケース面会(なんでも相談室 職員 3 名)
- 29 KA 若退園(202 ホーム)
- 29 自立 302 ホームケース引継ぎ(職員 6 名)
- 29 児相面接(コザ児童相談所 FSW 202)
- 29 小さな親切表彰
- 30 生と性のお話会(会議室 高校 1 年生 5 名)
- 30 高校オリエンテーション(未来工科高校 チャイルドホーム)
- 31 新ケース入所(202 ホーム) 新ケース入所(302 ホーム)
- 31 調整会議
- 31 ST さん退所(島添ホームへ)

6. 自立援助ホーム「島添ホーム」 評価と反省

今年度は女子3名でスタートし、4月に1名、1月に1名が入所している。退所は5月に1名、7月に1名、10月に1名となっており、年度末には2名の在籍である。

6月で20歳を迎えた利用者の措置解除後、沖縄県の委託事業(社会的養護自立支援事業)を活用し、ホームを生活継続する事が出来た。

5月、7月に退所した利用者は無断外泊という形でホームを出ている。関係機関から話を向けるが、最終的には本人らの強い希望で退所となっている。

10月に退所した利用者は計画的に資金調達し、希望していた一人暮らしが達成できた。当ホームでの生活に感謝する言葉もあった。

利用者は就労、就学に励んでいる。年度途中で入所した利用者は就職までには至っていないが短期バイトは出来た。専門学校入学と同時に入所した利用者は無事に卒業式を迎えた。在学時には多くの資格を取得し、将来の夢に向け前進している。

施設経験者が多いので生活習慣は確立しており、職員は定期的に声掛けする程度に留めている。料理に興味を示す利用者もあり、ホーム食事を調理する事もあった。また、日頃キッチンに立たない他利用者にも良い刺激となり簡単な調理から取り組む事が出来た。

食の関心の幅を広げる為、予算内で惣菜購入体験をしたり、冷凍食品を活用した。食に対するこだわり及び無頓着な利用者からは「意外と美味しい。」と新たな発見に繋がっている。

利用者らの希望でホーム宿泊研修を実施した。利用者が参画する事で、世の中の動きや社会人としての有意義なお金の使い方を学んでいる。また、グループ活動だけではなく個別活動も充実させた。20歳利用者は県外旅行、17歳利用者は本島北部旅行を実施。それぞれに職員が個別で対応する事で、利用者は計画性の大切さを学ぶと同時に充実感も得ていた。職員としても利用者の強みや伸ばしたい点を見つけられた。

20歳を超える利用者の外泊等に関する規則を見直した。多くの社会経験を通し視野が広がり、責任感も更に身につくにつがある。

日頃から衛生面や健康面には十分に配慮していたが、利用者2人が時期をずらしコロナウイルスに感染した。すぐにホテル隔離の手配を行ったので他者に感染する事はなかった。

海拔の低い地域の為、津波の被害を想定し避難訓練を実施した。実際に行う事で「何を持参するか」「どのルートで避難するか」等、利用者自身も気づきの場となった。

ホームページ更新は継続でき、ホーム開設30周年を迎えた事も紹介している。

年度前半は飛び出しする利用者の対応に追われる事が多かったが、後半は個々としっかり向き合いながら支援にあたる事が出来た。

利用者個々に関する関係機関との連携は多かった。スムーズに行くケースもあれば、役割分担が不透明なケースは日々の支援にも影響していた。連携の重要性を改めて実感する一年となった。

アフターケアを手厚くする為、自立支援担当職員を配置したが経験年数の短い職員だった事もあり勤務継続が厳しかった。ホーム職員が退園生の対応を引き継いだが通常業務もあり、時間調整が難しかった。

年度途中で職員の移動や退職があったので、その都度、ホーム運営について確認しあっている。また、ケースカンファレンスを丁寧に行う事で支援方針や支援方法がぶれないよう心掛けた。

県内だけではなく県外の施設関係者の訪問が増えてきた。情報交換を通し支援方法を学ぶ事が出来た。来年度も職員間でしっかりと連携を図り、ケースに応じた支援を実践していきたい。

【自立援助ホーム「島添ホーム」 担当職員】

- ・宮國 莉沙 (保育士 主任)
- ・仲宗根 敦子 (児童指導員)
- ・米須 なつき (児童指導員 4月～9月)
- ・有川 萌 (保育士 10月～3月)
- ・幸田 久美子 (自立支援担当職員 4月～6月)

「対等な関係で寄り添う」



ウクライナ避難民支援の学生ボランティアに参加する琉球大2年の森根絹代さん＝7月21日、琉球大学

琉球大2年・森根絹代さん(19)

日本財団ボランティアセとして今月15～31日、食料難民支援の日本人学生ボランティア派遣事業に、県内から琉球大2年の森根絹代さん(19)Ⅱ宮野湾市Ⅱが参加する。15日から約2週間で、ポーランドやオーストリアなどに渡る予定で、出発を前に「対等な関係で現地の人々に寄り添いたい」と語る。

同事業は、学生15人を1グループとしてウクライナ

からの避難民をサポートする。5月下旬から6月下旬にかけて、第1、2陣が派遣された。森根さんは第4陣の一人として、何かできない

学生ボランティアでウクライナ支援へ

いかと思いが募った。学生ボランティアの派遣事業を知り「見てるだけじゃ変わらない」と応募を決めた。緊張感を抱くと同時に、支援にあたつてはある思いがある。1歳半から18歳まで、児童養護施設で過ごした。周囲の人に支えてもらう中で「施設を訪れる人に『かわいそうな存在』と思われたこともあった。家で生活していいだけで、そう感じたことは一度もなかった」。

この経験が、自身が支援する立場になる上で、人との接し方を考える契機にもなった。高校生の頃から、不登校の子どもたちを支援する学習塾でアルバイトをしており、子どもたちと話す時は先入観なく、一人一人の個性や気持ちに意識を向ける。

「『かわいそう』ではなく、対等な関係で現地の人たちに向き合いたい。自分ができることを考え抜きたい」と真剣な目で語った。

(吉田早希)

29 社 会 1 版 2022 年 (令和 4 年)

桃のポテトチップスを頬張る島添の丘の児童たち
11 月、南城市大里



桃味チップス 児童ら大満足

南城市大里にある児童養護施設「島添の丘」に、福島県の特産品である桃を使ったポテトチップスが贈られた。桃をモチーフにしたピンク色のパッケージを初めて見た子どもたちは興奮した様子。紙皿に取り分けたポテトチップスを「桃の味がしておいしい」と頬張り、ふわつと香る風味も楽しんだ。

中学 2 年の男子生徒は「桃の

南城市「島添の丘」

甘い味わいとポテトの味が混ざっている。不思議なハーモニーを醸し出している」と初めての味に舌鼓を打った。小学 6 年と 4 年の男子児童 2 人も「100 点満点の味」と太鼓判を押し、「まだまだ食べられる。作った人は天才だと思う」と大満足だった。

島添の丘養護課長の奥間譲さん(54)は「こういう機会があると、東北を感じることができるとうなずく。子どもたちにとってもありがたいこと。人の和を感じられたと思う」と善意に感謝した。

200人つきたてに笑顔 南城・島添の丘、新春餅つき

【南城】南城市大里平良の島添の丘で15日、新春餅つき大会とバザーが開かれた。写真（提供）。コロナ感染拡大で規模を縮小した。関係団体と子どもたちがもち米の炊き出しから成形まで協力して実施し、約200人がつきたての餅をほおばった。

南城市民生委員児童委員連絡協議会の大里地区メンバーは、もち米25kgを蒸した。民生委員の當銘由則さん(64)は「(もち米に)子どもたちの健やかな成



長を託した」と話した。

高校3年生の女子生徒(18)は「二の腕が鍛えられる」と歯をくいしばり、もち米の弾力と格闘。コロナの影響で、3年ぶりに関係者もそろっての餅つきとなり「(施設で暮らす)最後の年なので、ずっと楽しみにしていた」と笑顔を見せた。(比嘉璃子)

尚巴志の物語熱演

沖縄市で現代版組踊



県内外の小中高生51人

【沖縄】小学生から高校生までの子どもたちが演じる現代版組踊「鬼鷲 琉球王尚巴志伝」公演が12日、沖縄市民会館で開かれた＝写真。昼公演には500人以上の観客が集まり、子どもたちの熱演に満席の会場から大きな拍手が送られた。

県内各地の小中高校生のほか、同じ現代版組踊のシリーズで活動する福島と鹿児島の子どもたちも参加、51人が出演した。

三山統一を成し遂げた尚巴志を主

人公に、北山討伐時の逸話や、統一後に首里城を大改築し王府をおいたエピソードなど、ダンスも交えて力強く演じた。

特別出演としてミュージシャンの宮沢和史さんと大城クラウディアさんが登場。宮沢さんは冒頭で「島唄」を披露し、大城さんも劇中の歌で盛り上げた。

出演した照屋希紗さん(18)と眞榮平千緒さん(17)は「県内外のメンバーが一つになって公演する姿を見て、元気や勇気を感じてもらえたらうれしい」と話した。

(中部報道部・仲村時宇ラ)



現代版組踊「鬼鷲琉球王尚
巴志伝」フィナーレの群舞
〓 沖縄市民会館大ホール

51人熱演 自分らしく 「鬼鷲」県内外の児童生徒

【沖縄】三山を統一し、琉球王国を築いた尚巴志を題材にした現代版組踊「鬼鷲～琉球王尚巴志伝」（主催・鬼鷲公演実行委員会）がこのほど沖縄市民会館大ホールで上演された。

2008年の初演から15年目となる今回の公演には、沖縄本島全域の子どもたち39人に加え、福島県南会津の現代版組踊「チー

ム息吹」、鹿児島県の「鬼武蔵」、フィンランドからの留学生、美咲特別支援学校の生徒ら小中高生総勢51人が熱演を披露した。

出演した沖縄市立北美小の座喜味盛之さんは「公演後に知らない人からいっぱい『すごかったよ』と言われ、とてもうれしかった」と話し、沖縄アミークスインターナショナルの大鶴優菜さんは「達成感がすごい。自分らしく演じることができた」と喜んだ。（喜納高宏通信員）

伊江の畑でいっぱい収穫 南城・島添の丘

【伊江】南城市大里にある島添の丘（新垣和彦施設長）の子どもたちと職員約40人は3月18日、伊江村西江前在住の島田勝雄さん(67)の畑「島添の丘 いーじま農園」でジャガイモ、タマネギ、ニンジンの収穫作業を体験した。

コロナ禍越え、子どもら喜び

今回収穫したのは昨年11月に島田さんと島の有志が植え付けたもの。新型コロナの影響を受け2020年から3年は来島することはできず、有志で植え付けや収穫作業を行っていた。子どもたちは待ちきれない様子で久しぶりの収穫に取り掛かった。

前日の雨の影響もあり土は柔らかく、ニンジンとタマネギは引っ張るとすぐ土から顔を出した。子どもたちは「このタマネギ双子だ！ これ大きい」と歓声を上げた。この日、収穫した

のは、ニンジン、タマネギ、ジャガイモ合わせて150kgほど。

昼食は近くのミースィ公園で島田さんの妻・朝子さんと、照太寺住職の浦崎道涯さんの妻・西香さんが作ったカレーが振る舞われた。

新垣施設長は「久しぶりの収穫体験なので、準備の段階から子どもたちが楽しみにしている様子が伝わってきた。今回で体験が10回目の子もいて、皆から大きくなったねと声を掛けてもらってうれしそうだった。こん



「島添の丘 いーじま農園」で収穫体験をする子どもたち。3月18日、伊江村西江前の島田勝雄さんの畑「島添の丘 いーじま農園」

な素晴らしい機会を与えていただいている島田さんご夫婦はじめ、浦崎さんご夫婦、島のボランティアの皆さんに感謝している」と話した。

島田さんは「当時小学校1年生だった子がもう中学生になる

と話していた。高校に進学する子もいて、月日が経つのは早い。子どもたちの成長がうれしい」と感慨深げだった。

植え付け収穫体験は、2016年から始まり今年で8回を数える。（知念光江通信員）